

教育民生常任委員会
予算常任委員会教育民生分科会

(令和4年3月3日)

○ 森川 慎委員長

それでは、昨日に引き続きまして、議案第73号令和4年度一般会計予算についての続きの審査を行っていきたいと思います。

昨日は追加で請求いただいた資料を中心にやっていて、まだ終わっていないところもありますので、まずは追加資料の請求をいただいたところの箇所を中心に、質疑、ご意見等々を進めていただきたいと思いますので、ご発言のある委員の皆様は挙手にてお願いします。

また、インターネット中継を行っておりますので、毎度のことですが、マイクに近づいての発言にご協力をお願いいたします。いかがでしょう。

ごめんなさい。ファイルは003の教育民生予算分科会追加資料修正後というところですが、併せて110番のところは当初予算の資料になっていますので、この辺をご参考いただいてご質疑いただければと思います。

○ 中川雅晶委員

インクルーシブ教育の推進事業について、資料、ありがとうございます。

特にこの資料を頂いて、小学校サポートルームの取組であったりとか、あと、特別支援教育コーディネーターについてとかはもう詳しく記載いただいておりますので、特に私としては、3番目の介助員、支援員、医療的ケアサポーターの配置についてというところが非常に課題かなというふうに認識しているところなんですけれども、まず、本市のこういったインクルーシブ教育、医療的ケア児支援法が成立して、特に医療的ケアが必要な子供たちの教育に対する方針であったりとか計画であったりとかというのは、教育委員会として持っておられるのかどうなのか。僕、ちょっと調べている中においては、四日市市障害者計画の中にはその一部が記載されているというのは確認しているんですが、また、教育白書の中にも特別支援教育の充実というところで公表されているというところも確認できるんですが、教育委員会として障害児等の教育方針とかというような形で何らかを持っておられるのかどうかをまず確認させていただきます。

○ 稲毛教育支援課長

おはようございます。教育支援課長の稲毛でございます。よろしくお願いいたします。

医療的ケアに関しましては、国のほうも法整備がされまして、本市でもそのケアを始めているところですが、これを始めるに当たりまして、教育委員会といたしまして、四日市市医療的ケア実施校ガイドラインというのを作成いたしました。そのガイドラインに基づきまして、医療的ケア対象の児童生徒はどんな子供さんなのか、そして、実施者は誰であり、学校が整えるべき体制であるとか、医療的ケアサポーターさんがどんな役割をするのかということなどを明記いたしまして、その制度にのっとって順次進めているところでございます。実際に来年度も入学予定の方もいらっしゃいますので、事前に保護者さんを含めて担当のお医者様からも聞き取り等を行いながら、当該学校と連携して来年度に向けた体制整備を今進めているところでございます。

○ 中川雅晶委員

ありがとうございます。

四日市市のガイドラインというのはホームページか何かにアップされているんですか、されていないんですか。

○ 稲毛教育支援課長

申し訳ございません。ホームページにアップはしておりません。

○ 中川雅晶委員

ぜひガイドラインを資料として、今日じゃなくてもいいと思いますのでご提出いただきますようお願いできませんでしょうか。

○ 稲毛教育支援課長

後刻提出させていただきます。

○ 中川雅晶委員

ありがとうございます。

障害者計画の中でどういうふうに教育の充実というところを示しているか、ここを見させていただくと、相談支援体制の整備と就学支援の充実と、これは、学校では4歳から8

歳までの発達支援とかという形で、大きい施策の体系として出来上がっていることは確認できていて、その中で重要なのが相談支援ファイルと巡回教育相談というところと、あと、今やっているインクルーシブ教育というところ、特別支援教育の体制の確立というところかなと思うのですが、そういったところもガイドラインの中に示されて、まだ1回も見えていないので何とも言えないんですけども。

この中で、特に先ほども申し上げたとおり、医療的ケアをどういうふうに確立するかとなると、やっぱりその体制整備を進めていかなきゃならないという、その辺の現状の数字は見させていただきましたけれども、これで今、十分なのかどうなのか、とてもじゃないけどニーズに対応、適応できていないのか、その辺はどうでしょうか。

○ 稲毛教育支援課長

医療的ケアに関してということでお答えさせていただきますが、ガイドラインのほうには、今申し上げましたとおり、医療的ケアに関するガイドラインですので、その内容のことが記載されております。現状、今年度に関しましては11名のお子さんということで、学校に複数名在籍されるところもございますので、その11名のお子さんのケア、これも終日必要な方とお昼だけ必要な方、いろいろ症状によって変わりますので、それに応じて看護師を配置ということで、本年度は配置できております。来年度、小学校を卒業するお子さんはゼロで、入ってくるお子さんが今のところ2名ということで増えますので、それに向けて看護師の配置を検討しておりますけれども、ぎりぎりなところでございますね、配置としては。余剰で待機していただいているような看護師さんというのはいらっしゃらない状況でございます。

○ 中川雅晶委員

その都度その都度ニーズに応じてやってというか、探さなきゃいけないというのが現状であるということですね。今現在11名の方とおっしゃっていただいておりますけれども、ひょっとしたら潜在的なニーズもあるかもしれないというふうに思うと、潜在、顕在合わせてなかなか大変だということです。私どもの公明党の山口議員も議会で取り上げたとおりに、担っていただく看護師さん等のやっぱり確保策というところで、大阪の豊中市の事例で、ここは教育委員会が採用しているのではなくて、担っていただく看護師さんを豊中市の市立病院で採用いただいて、そこから派遣というか来ていただくという形を取っている

と。例えば本市の中でも、あくまでも教育委員会がその辺の確保をしなければならないというふうに思っておられるのか、例えばそういった看護師さんの採用しやすいようなところで、確保しやすいようなところで確保していったほうが合理的なのか、その辺はどういうお考えなんですか。

○ 稲毛教育支援課長

教育支援課、稲毛でございます。

先般の質問の際にもお答えさせていただいたところでございますけれども、本市にも市立病院がございますので、今市立病院から派遣という体制はございませんが、そちらのほうと連携しながら、看護師さん、ご紹介まではあれですけれども、募集の策を一緒に考えていただくとか、そういったところでの連携というのはこれからも進める余地があると思いますので、そういったお話は今現在させていただいております。

○ 中川雅晶委員

今もそういう看護師さんのOBとかという形で採用されたりとかというのはあるとは思いますが、これも市全体で医療的ケアというのをやっぱりしっかりと考えると、学校現場だけとか教育委員会だけに任せる問題ではないのかなと思いますし、裾野の広い話だと思いますし、また、ここの市立病院を中心とした地域医療の中においても、医療的ケア児の重要度というのはやっぱり双方で理解してもらわなければなかなか進まないとなると、豊中市のような形で。素人が考えてもいろんな課題はあるのかなと思うんです。公営企業ですし教育委員会ですし、また、市長部局が絡んで、その人件費をどこでどう賄うとか、いろいろあるとは思いますが、あと、医療的ケアのそういったサポート、看護師さんを採用するとしても夏休みがあつたりとか、また、卒業されたりとかして、本当に安定しないという部分もあつたりとか、双方いろいろ悩みがある中で、市立病院さんは市立病院さんで看護師さんの確保とかというところの悩みがあるとは思いますが、ただ、その人件費についてしっかりと合意できれば、そういう体制を組めるというところは十分にあるのかなと思うんですが、そのためには教育委員会が独立機関として、やっぱりそれを物申していくということが僕は重要やと思うんです。法律もこうやって改正をされて、私どもも委員長も関わっていただいた四日市市障害を理由とする差別の解消を推進する条例の中にも、15条の中にはやっぱりその部分、教育の部分の合理的配慮の促進をす

るということを明記している中においても、教育委員会の中でしっかりとどういう医療的ケア、学校における合理的配慮をしていくんだということをしっかり方針として打ち立てて、市長部局に総合教育会議の中で物申したりとか、また、豊中市のように教育委員会として独自で障害児教育方針というのを立てて調整を図っていくとかという、わざわざ独立した機関であるということを認識していただいて、その辺、一步進めるべきだと私は思うんですけど、その辺のお考えはいかがでしょうか。

○ 稲毛教育支援課長

ありがとうございます。

体制の整備に追われるところではございますけれども、市長部局のほうからは介助員支援も含めまして、必要であるという分につきましては予算をしっかりとつけていただいております。そういった意味で、我々が今後、障害児というか、特別支援の教育を進めていく中でのケアの部分でどんな方針を持って進めていくのかということで、ビジョンにも記載はしておるところでありますけれども、もう少し進めて考えていくところではあるのかなというふうに感じました。ありがとうございます。

○ 森川 慎委員長

教育長、よかったですか、先ほど何か発言したそうでしたけど。

○ 廣瀬教育長

教育長、廣瀬でございます。

先ほど教育支援課長が申し上げたとおり、ビジョン、それから学校教育、指導方針にも記載をしておりますけれども、そういったどんどん新しい課題は出ております。総合的に毎年方針も見直しておるところですので、実態とこれからの課題に応じたものについては、体制も含めてブラッシュアップしていきたいと考えてございます。ありがとうございます。

○ 中川雅晶委員

ぜひそういうふうに進めていきたいと思えますし、障害者計画の中にしっかりと書き込んでいることを、さらに教育委員会の中で今後の在り方とかというところも、もっと諸部局に対して意見を申せるような、教育のプロフェッショナルというか、教育するなら四日

市市と市長が大きい教育方針を立てているのであれば、その教育を担っているスペシャルな機関として発信いただくという責務が教育委員会にはあると思いますので、ぜひその辺を進めていただきたいなと思いますし、教育委員会だけでは担っていけない部分というのが医療的ケアの重要な部分なので、ここの連携を図らなければ、せっかく医療的ケアの支援の法律ができて、それが必要な支援として必要な方に届かないということになりますので、何とか届ける施策であったりとか工夫であったりとかというのをぜひ進めていただきたいというふうに強く強く、山口議員からの使命を受けて発言させていただいていますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○ 森川 慎委員長

以上ということです。

インクルーシブ教育、今の中川委員の議論なんかに関連してご質問なりご意見がございましたらここを出していただけると助かりますが、よろしいでしょうか。いいですかね。

それでは、他の項で何かございましたら。

○ 笹岡秀太郎委員

総合的なところでもよろしいか。

○ 森川 慎委員長

1回ちょっと待ってください。

○ 笹岡秀太郎委員

追加資料の。

○ 森川 慎委員長

そうです。どうぞ。

○ 笹岡秀太郎委員

様々な事象をしっかりと対応していただいて予算もしっかりとつけていただいて、対応

もしていただいて、現場の先生方は大変やろうなという思いで見させていただいておるんです。子供たちも病むように先生方も病むのではないかというぐらいの事象がたくさん起こっているなという現実を見させていただいておるんだけど、いわゆる指導者側、先生たち、あるいは教育委員会側が指導されている方の心、ハート部分のサポートというのは、恐らく何らかの形でやっておると思うんだけど、たくさんの中には参っちゃったなという指導者側もいるんじゃないのという思いがあるんです。そういう意味でいうと、本当に現場で大変な作業をやっていただいているのは感謝するんだけど、その辺りのサポートというのはどういうふうにされておるんですか。ないというならないで結構ですけど。

○ 森川 慎委員長

教職員のケアについてですね。

○ 稲垣学校教育課長

職員のメンタルヘルスケアにつきましては、コロナの影響とかこういった施策の影響もあるのかなというふうなことも検証しながらではございますが、疲弊している教職員については、勤務実態を基に各校長がまずは面接、面談をし、そして産業医への面談につなげていく。そこで分かってきたところについては医療機関につないでいくというふうな方向性を職員に示しながら、心の安心、安全、もちろん学校に配置してありますスクールカウンセラーなんかも協力をしながら職員のメンタルヘルスには気を遣っているところでございます。

○ 笹岡秀太郎委員

子供たち、生徒たちに対する配慮も大変重要だと思うけど、それを指導していただく皆さんが疲れては困るので、その辺、見落としのないようにしっかりとした対応を取っていただくように要望して終わります。

○ 森川 慎委員長

ぜひよろしくをお願いします。

追加資料に関するようなところでよろしいですか、よろしいですかね。

(なし)

○ 森川 慎委員長

そうしたら、ここからは教育委員会全般に関わるところで、また戻ってもらっても結構ですけれども、ちょっとお待ちください。昨日、日置委員が手を挙げておられたのを1回ちょっと我慢していただきましたので、そこから始めていただければと思っています。

○ 日置記平委員

委員長に大変ご配慮いただきましたが、ずっとあの以来から私の三つの件はほぼもういろんな皆さんから質問が出ていまして、私的には方向性はもう定まったかなというふうに思っております。いじめ問題と、それから給食問題、最後の伊藤社会教育・文化財課長のほうの説明では、観光交流課のポジションが今度変わるようですけど、その問題等々、いろいろ皆さんから説明を受けましたし、メンバーの皆さんも大変有効な質問もしていただきましたので、一応これで大丈夫です。

○ 森川 慎委員長

分かりました。議論のところでもた何かありましたらご発言いただければと思います。

○ 豊田政典委員

個別の話で、私がお聞きしたいやつを順番に。110ファイル、当初予算資料の175ページ、奨学金ですね。これはもうすばらしい、これは大いにやっていただく必要があると、コロナに関わらず。これって今年度から始まったんでしたっけ。今年度は240万円ってなっていますが、募集定員、それから実績はどういうふうになっているのかなというのをまず教えてください。

○ 杉本教育総務課長

教育総務課、杉本でございます。

奨学金募集定員のほうが、もともと当初予算で50人、その後、8月の追加補正で50人ということで、合わせて12月に100名の募集をかけさせていただきまして、応募実績が89名でございました。

○ 豊田政典委員

それは月額のうちですか。

○ 杉本教育総務課長

入学支度金と月額はセットでございますので、89名の方が入学支度金と月額の奨学金の対象ということです。

○ 豊田政典委員

もちろん審査もあるんでしょうけど、大切な事業だと思うので、不足があったら困るので、もしもオーバーしたらまた補正してもらおうというふうに思っておけばいいですか。

○ 杉本教育総務課長

令和4年度の奨学生につきましては、今申しあげました100名のところで89名ということでしたので、おかげさまで応募された方皆さんを採用させていただくことができましたので、今のところ不足というのはございませんので、この89名の方、先般審査のほうもさせていただきまして、ちょうどこの方たちに採用の決定通知を送らせていただいたところということで、これから支給に向けての手续に今度入らせていただくという状況でございます。

○ 豊田政典委員

今やっているやつはそれでいいと思うけれども、さらに応募があつて、この審査を通るような方が100名以上になれば、定員以上になったら、金がないから出せませんじゃなくて、四日市市はたくさん貯金を持っているのやから、未来を担う子供たち、若者たちのためにまた補正していただきたいなと思っています。この項は終わりですけど。

○ 森川 慎委員長

これ、1点、年度途中で申請というのもできる制度になっているんですかね。

○ 杉本教育総務課長

もともとの制度は定期募集ということ想定して制度設計させていただいておりますので、随時ということ想定してございません。

ただ、令和4年度につきましては、今申し上げました100名に対しての89名でございます。この後、実際に何人の方がこの奨学金を使っていただくかというところがこれから決定していくんですけども、その予算の残の状況を見て、せっかくいただいた100名分ですので、この分は令和4年度については有効に活用させていただけるような形でこれから考えていきたいと思っております。

○ 森川 慎委員長

ぜひ、多分、家計が急変する子たちも出てくるんじゃないかなということも思いますので、柔軟に対応いただきたいと思います。

○ 中川雅晶委員

僕は100名以上いるかなと思っていたので、89人と聞いてびっくりしたんです。例えば各学校にちゃんと周知が行き渡ったのかどうかという、例えば、応募があった学校が偏っていたりとか地区が偏っていたりとか、そんな傾向はなかったんですか。満遍なくあつて89人という結果だったのか。その辺をどう分析されているんですかね。

○ 杉本教育総務課長

全校満遍なくということではございませんが、極端にどこかに偏つてという、そういった状況ではございませんでした。

○ 中川雅晶委員

偏つて極端にどこかが少ないとか、あまり積極的に告知されなかったとかということはなかったのかどうなのか。今すぐは分からないにしても、今後ちょっとまたこういうのを検討する余地があるのかという分析をしていく余地はあるのかなと思うのですが、その辺だけちょっと確認したいです。

○ 杉本教育総務課長

今回12月に募集をかけさせていただいたということで、三者懇談の場で学校から保護者

の方への周知というのも行っていただいているというふうに聞いております。今回初めてさせていただきましたので、また令和5年度の奨学生の募集を今度かけていきますので、その辺り、こういった形で周知させていただくのがいいかというのは、またこれからも検討させていただきたいと思っております。

○ 中川雅晶委員

周知は学校を通してしていただいて、申請は各個人で申請していただくということだと思いますよね。

○ 杉本教育総務課長

そのとおりでございます。

○ 中川雅晶委員

もう一つ、この事業を僕はそもそも教育委員会でしなきゃいけないのかなという疑問も実はあるんです。奨学金という名前がついておるので教育委員会が担っているのかなと思うのですが、これは市長部局で——政策推進部なのか総務部なのかシティプロモーション部なのか分かりませんが——やるべき事業じゃないかなとかって思ったり。

あと、これを何年も、一部は返還、半分は返還しなくてもいい給付型ですけど、半分は、どこに所在があるのかというのを確認した上で返還免除にするのか返還いただくのかということもしなきゃいけないし、継続した事業にしていくと何年にもわたってその管理をしていかなきゃいけないとか、これは教育委員会の仕事かなと、その辺はどう思われているんですかね。

(発言する者あり)

○ 中川雅晶委員

言いにくいですよ。言いにくいと思いますが、僕は、これはどうも教育委員会の仕事ではないんじゃないかなって、また、その窓口をあまりにも狭めてしまうと、この間僕も提案させていただいた奨学金返還支援制度とかというところを連携するとなれば、奨学金と奨学金返還支援制度って別の制度ですけど似た制度ですし、奨学金返還支援制度は、自

治体がやる返還支援制度もあれば企業が行っていただく返還支援制度もあるので、こういうのと連動させていくとなれば、奨学金は入り口ですけど、一体的に行うということの若者支援と考えれば、なかなかちょっと教育委員会だけに任せるとするのはあまり合理的ではないんじゃないかなという意見は個人的には持っています。事業自体は、奨学金なんかでも、卒業後もまた四日市でいろいろ定住しやすいような制度になっているので、この事業については全然異論ありませんし、できれば毎年、コロナ対応枠だけではなくて100名枠をそろえていただきたいなというぐらいに思っているんですが、ぜひその辺も、答えにくいとは今おっしゃいましたけど、こういう意見もあるということで、また、教育委員会の中、また、市長部局との調整の中で、ぜひすり合わせていただきたいなということをお願いして終わります。

○ 森川 慎委員長

もう一点ちょっと確認させてください。

この89名の高校生と大学生は何名ずつだったんですか。

○ 杉本教育総務課長

高校生が46名、大学生等が43名でございます。

○ 森川 慎委員長

大体半分ずつですか。ありがとうございます。ちょっと知りたかったので伺いました。

この奨学金に関して、ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

じゃ、別の項がございましたら。

○ 豊田政典委員

まだたくさんありますので。

どれにしようかな。資料にはないやつを幾つか行くんですけど、コミュニティスクールについてお聞きしたいんですけども、最初、教育委員会がコミュニティスクールをやるときにおおっと思ったんですけど、四日市版がついていたと。資料、どこかで見たような気がするんですけど、実際にやっているのは芋掘り授業だとか、地域の人に授業というか、中に入ってもらって交流したり高齢者の知恵遊びとか、そういうやつが中心なのかなとも

思いながら、今の実態はどんなことで、これは全校でやっているのかとか、現状をちょっと教えてほしいなと思います。

○ 小林指導課長

指導課、小林です。よろしくお願いします。

本年度から全校実施となりました。内容としましては、年度や学校によって違うのですが、けれども3回から5回、またはもう少し多い会議を開く中で、ビジョンの策定に伴って会議を行って協力を得る、また、ご意見を得るといような会議。そして、そのビジョンが達成されたかどうかという最後の会議もごさいます。その中で、外部講師として今言われたような、よそから誰か入ってきていただく中で、学校の中で地域の人を講師に招いて、その予算も取る中で授業を行っていただく、そして地域に根差した教育を行うというような中で、それぞれの評価を行ってもらおうと同時に、今委員が言われたようなゲストティーチャー、そういう予算もつける中で、皆さんのお知恵を拝借する中で、いろんな方が授業に入っていて運営を行っている、そういうような状況です。

○ 豊田政典委員

私も教育民生常任委員会に久しぶりに戻ってきたので、その間、いなかった頃の事情は分かりませんが、すこやか協力者会議ってありましたよね。これとの関係はどうなっているか。その会議って誰が会議のメンバーなのかも含めて。

○ 廣瀬教育長

教育長、廣瀬です。

すこやか協力者会議の頃から、私、担当しておりましたので簡単にご説明いたします。

すこやか協力者会議は中学校区で地域の方を集めていただいて、大きな中学校区としての生徒指導上の様々な問題について協議をするというような形ではしたのですが、母体が大きくてなかなか深まらないという、中学校と小学校の問題、事象も違うということでちょっと運営が難しいところもございまして、それを整理させていただいて、学校づくり協力者会議という、小学校、中学校にそれぞれの学校教育の課題について話し合っただく、地域の方と一緒に話し合っただく会を設けました。そういった取組の中で、モデル的に学校運営協議会を置くコミュニティスクールを中部西小学校と中部中学校と八郷小学校

からスタートさせていただき、そういったすこやか協力者会議を発展させた形でコミュニティスクールのモデル、それから、学校づくり協力者会議の設置ということで進んでまいりました。コミュニティスクール運営協議会という会議は先ほど小林課長が申し上げたとおり、学校の学校づくりビジョンについて一緒に考えていただいて、そのビジョンどおりの運営ができていくかどうかということについても評価をしていただきながらご協力いただくと。ご協力いただく中に、先ほど豊田委員がおっしゃられたいろんな地域の方々のゲストティーチャーなりに学校の支援の様々な活動をしていただいている。そういった形でつくられているというようなところでございます。

○ 豊田政典委員

四日市市の場合、とりわけ小学校については地域の中の学校という大方針を持ってやっているの、地域住民と共に考えるという方向性は悪くないと思うんですけど、コミュニティスクールが一番最初に始まった米国とかブラジルとかでは、授業内容とか予算だとか教育方針、そういうところまで住民が意見をするという、かなり踏み込んだような形だったし、日本でも足立区なんかでかなりもめ事があつたりしたという歴史があると思うんですけど、四日市版というところでもうちょっと緩やかな気もするんですけども、私がなぜこの質問をしているかというと、ビジョンの策定、評価という、そこまではいいと思うんですけども、やはり学校教育というのは、教育委員会や学校が責任を持って授業をし、方針を持ってやるべきだと思っているので、メンバーが誰か知りませんが、あまりにも学校の授業であるとか内容に踏み込み過ぎる意見があつたり——笹川ではよくありましたが——口出しするなというところまで行きかねないところに危うさを感じているので質問しているわけです。

例えば運動会で、日本語で全部やれとかというわけの分からんことを言う人もいましたけど、そういった私の心配するようなことにはなっていないのかどうか、現状。

○ 小林指導課長

各校、毎年報告をいただきます。それをまとめて一つの冊子というか、A4裏表2枚でご報告等をさせていただいているんですが、そのほかにもA4裏表で報告をいただいておりますが、そういう大きな課題、問題点というのは現在のところ報告はされていません。むしろ、こういう活動ができたというようなことで、今、ゲストティーチャーのお話もあ

りましたけれども、そういうことも含めて具体的な内容が書かれたものは報告されております。

○ 豊田政典委員

分かりました。この項、了解です。

○ 森川 慎委員長

コミュニティスクール、出ましたけど、よろしいでしょうかね。

○ 中川雅晶委員

コミュニティスクールはまたぜひ、せっかく廣瀬教育長になられたので、推進、もっと旗を振っていただかなきゃいけないなと思うのですが、そのエールを送るんですけども、とともに、このコロナ禍を受けてコミュニティスクールの在り方であったりとか、難しさというか、多分困難にも直面されているのかなと思うのです。また、逆に言ったら、このコロナ禍を受けて新たにコミュニティスクールの発想であったりとかもあるのかなと思うのですが、コロナ禍を受けて、アフターコロナにこのコミュニティスクール、どういうふうな方向で考えておられるのか、少し所見だけお伺いさせていただきます。

○ 小林指導課長

形としては、コロナ禍で実際に例えば授業を見に行くとかというような会もあると思うんですね。その辺については、各学校を中心にしたりしております。ただ、それは中心にしますけれども、会議等を行っているのではないかなと思っております。まだちょっと結果が出てきていけませんのでそこまではっきり言えないところがあるんですが。

今回、コミュニティスクールだけではなく、いろんな精査をする中で何が大事かというのが各学校でも感じたり話し合われているところだと思っております。コミュニティスクールにつきましても、今まであった予算については残し、そしてまた、今回行うことでこういうことが大事だなというのがありましたら、各学校のビジョンも含めて今後に生かせるような内容としていきたいなと感じております。

○ 中川雅晶委員

ぜひいろいろ工夫していただいて、せっかくGIGAスクール構想でタブレットが1人1台配付されているのであれば、そういうのを有効活用するという方策もあるのかなと思いますので、学校のそういった見守りとか環境とか地域合同行事とかの学校支援と教育支援、昨日もあったいろんなクラブ活動の支援とかというの也被てくるのかなと思いますし、また学習支援、こういうところもGIGAスクール構想のICTを活用した学習支援の在り方というのものもあるのかなと思いますので、ぜひその辺も、少し四日市版コミュニティスクールも、そういう段階にまたチャレンジいただくように要望だけしておきます。

以上です。

○ 土井数馬委員

今日、冒頭で卒業式の説明もございましたけれども、こういうコミュニティスクールの中の協議会のほうから延期になる、あるいはもう来賓を呼ばないとか、いろんなことを協議されて、決まった後で協議されるのか、そこで知らせるのかちょっと分かりませんが、前も言いましたけど、卒業式とかそういうものにはやっぱり地域の人も出たいと思うんですよ。それと前も言いましたけど、やっぱり生徒も実際、僕が小学校や中学校の頃に近所のおじさんが来ておったってどうとは思わなかったけど、実際、後々になると、あのときに来て、厳かな式だというのは僕はいまだにある、今は大分卒業式の雰囲気も変わってきていますけれども、やっぱり後々のあれを考えれば大事なことだと思いますので、やはり学校だけの知恵じゃなしに、地域の小うるさい人もおるかも分かりませんが、そういう話も入れてつくっていかないと後で悔いを残すんじゃないかなと、子供たちの思い出も少し足りないんじゃないかな。そのときだけ、1年だけですので、たまたまコロナで卒業式ができなかったという子供と、僕のときはこんなのやったわということがあると、そういうのがありますので、十分に子供らと、地域とも話をされたらどうかなというふうに思っていますけど、そういうふうなやり取りはあるんでしょうかね。さっき言ったみたいにあまり口を出すやつは聞かんだらよろしいですけども、やっぱり報告しながらお互いにどうでしょうというのでやられるというのは理想の形だと思うんですけども、どうなんですかね。その辺の行事に関していろんな話合いがあるのか、ちょっと聞きたいなと思います。

○ 森川 慎委員長

学校行事の議論のところ、その辺の実際のところはどうかということについて。

○ 小林指導課長

指導課、小林です。

この行事等については、コミュニティスクールの委員長さん、それからPTA会長さん等とどのようにするかというのは、各校で話というのはあると思います。

すみません。思いますというのは、どこまで両方とも確実にできておるか分からないので、基本的には、校長であれば一言こういう方向でやりたいんですがどうですかというようなことで進める形になります。やっぱり、今委員も言っていただいたようなことなしに進めるとどうなっておるのやというようなことになってきます。我々としましては、各行事においてはやっぱり子供たちの成長というのを一番基盤に置きたい。しかしながら、今年度、昨年度であれば、コロナ禍の状況の中で何をどうしていくかというような選択が必要となってきます。

教育委員会としましては、例えば水泳であれば感染症対策をきっちりした中でできるものについては、最低限のものになるかも分からないけれども、リスクができるだけ少ない中でやれる方向でこの2年間やってきたつもりです。その中で、やはり卒業式等については、中学校であれば3月7日に卒業式がございます。そこへ複数が入ることによって感染したらどうするか。もちろんそのほかにもいろんなことがあろうかと思しますので、そういうのはきっちりと相談しながら、一言言いながら、そして、教育委員会から下りたものであっても一言言っていたらいいような中で運営していただいていると思っております。

そして、言われたように、今年度、去年、いろんなことができる部分が制限されたところがあると思いますので、ある意味その制限された中で、行事等、何が必要かという精選も含めて、よりよいものをつくっていくことが大事だと思っております。

以上です。

○ 土井数馬委員

個々の学校とかでそれぞれ違うと思いますのでさっきの答弁で構わないんですけども、やっぱり教育委員会としてそういうのを持っていてほしいなという思いでお話ししていますので、個々の学校にああせいこうせいと言う必要はないですから。そうなんですけれど

も、本会議でも言いましたけれども、コロナ禍だから去年もそうだったし仕方ないとか、やるほうも呼ばれるほうも地域のほうも、しゃあない、あまり無理せんほうがええぞと、それが怖いなというふうに考えておりますので、そこは十分に考えていただきたいという点で、それだけちょっと申し上げて終わります。

以上です。

○ 森川 慎委員長

コミュニティスクールをやって、全て出尽くしてから休憩を取りたいと思いますので。

○ 小田あけみ副委員長

休憩が近づいていると思いつつも一言だけお願いしたいことがありまして、卒業式、土井委員の発言に関連して要望なんですけれども、私、地域の方を呼ぶのであれば、登校のときにつじつじに立っておられる老人会のおじいちゃん、おばあちゃんをぜひ呼んでいただきたいと思っています。自治会長とか市議会議員よりもそういったおじいちゃん、おばあちゃんを呼んでいただけたらなと思うんです。

なぜそう言うかといいますと、私、高校生の子たちとお話をしたときに、その場におじいちゃんがおられたんです、その地域のおじいちゃんが。すごく仲よくしゃべっているから、どうしておじいちゃんを知っているのって聞いたら、登校のときにいつも旗で通してもらっておったんやわという話を聞いて、卒業式こそそういった登校するときに毎朝顔を合わせていたおじいちゃん、おばあちゃんが卒業式に来てくれたらどんなにうれしいやろうと思いましたので、来賓で呼ぶなら自治会長とか議員よりもそういった方を呼んでほしいなど。ちょっとそれだけ言いたくてお話ししました。すみません、要望だけです。お願いします。

○ 森川 慎委員長

桜台小学校はそういうおじいさん、多分来賓で来ていたと、私、記憶しているので、多分学校ごとに、地域ごとに違うんじゃないかなとも思いますので、その辺、そういった意見も出ましたので、またいろんな地域事情を考えていただきながら柔軟に対応いただきたいということを要望します。答弁はよろしいね。そういう意見がありましたので、またご参考にいただきたいと思います。

それでは、1時間を経過しましたので、前方の時計で午前11時15分まで休憩を取らせていただきます。

11:02 休憩

11:15 再開

○ 森川 慎委員長

盛り上がっていますが、再開をさせていただきますので、私語はお慎みをいただきたいと思えます。

では、村山委員、さっき挙げられていたので。

ごめんなさい。冒頭の小川委員のですかね。

○ 廣瀬教育長

先ほど小川委員からインフルエンザによる学級閉鎖数についてご質問をいただきましたので回答させていただきます。

○ 稲垣学校教育課長

学校教育課、稲垣でございます。

先ほどは準備が遅れまして申し訳ございませんでした。

令和元年度のインフルエンザ等による学級閉鎖数でございますが、令和元年度が、学年閉鎖27件、学級閉鎖71件、平成30年度まで遡りますと、学年閉鎖20件、学級閉鎖が89件、そして、爆発的に起こりました平成29年度におきましては、学年閉鎖が31件、学級閉鎖に至っては229件というふうなことになっておりました。

以上ご報告させていただきます。

○ 森川 慎委員長

小川委員、そういうことですが、よろしいでしょうか。

○ 小川政人委員

オミクロンは今どれだけおるのか。

○ 森川 慎委員長

比較という話だったので。

○ 稲垣学校教育課長

今、オミクロンについては、具体的な数字は、申し訳ありません、オミクロン株というか、今のコロナに関して言いますと、今は合計、学校閉鎖が1件、学年閉鎖が8件、学級閉鎖が51件、合計60件というふうになっております。

○ 森川 慎委員長

それは何月から何月の話ですか。

○ 稲垣学校教育課長

2月いっぱいなの。

○ 森川 慎委員長

今年の2月いっぱいまでということですかね。

ということでございます、小川委員。よろしいですか。

それでは、ごめんなさい、村山委員、お待たせをしました。お願いします。

○ 村山繁生委員

当初予算資料169ページの四日市こども科学セミナー事業費366万5000円についてお尋ねします。

ものづくり、環境、宇宙をテーマとした四日市こども科学セミナーを引き続き実施し、子供たちの科学への知的好奇心、探究心を向上させるとともに、社会とつながる協働的な学びを実現するとあります。これの対象学年は何年生なんですか。

○ 稲毛教育支援課長

教育支援課、稲毛でございます。

対象は小中学生としておりますが、特に企業さんが出していただくブースに関しましては、内容によって高学年対象、あるいは中学生対象というふうに設定をさせていただいております。

○ 村山繁生委員

これは1年間で全小学校、中学校が対象になるんですか。それとも順番というか、交代であるのか。

○ 稲毛教育支援課長

教育支援課、稲毛でございます。

こども科学セミナーに関しましては夏休みに行うイベントになっておりますので、イベントにお申込みいただいた方にご参加いただいております。これとは別に企業連携事業ということで、各企業さんが学校を回る出前授業や社会見学を実施しておりますので、それについては各学校からお申込みいただいてという形で進めております。

○ 村山繁生委員

申込みのところだけということなんですね。

そのテーマはやっぱり毎年変わってくるんですよ。

○ 稲毛教育支援課長

教育支援課、稲毛でございます。

基本的には当初予算資料に記載したとおり、ものづくり、環境、宇宙というこの3本柱で進めておりまして、これに合わせたイベントを実施しております。

○ 村山繁生委員

そこでなんですけど、一つ提案をしたいんですけども、ぜひ水素学習を、水素に対する知識、あとは実験、科学実験、そういったものをぜひ取り入れてほしいと思うんです。今の子供たちが社会人になる頃は水素社会が始まりつつあると私は思っています。だから、そういったときのためにも今から水素に対して知識を身につけてやってほしいなと思うんですけども、いかがでしょう。

○ 稲毛教育支援課長

教育支援課、稲毛でございます。

ここにご協力いただいております企業さんの中にはエネルギー関連の企業さんもいらっしゃいますので、ぜひ来年度の企画に向けて、従来のエネルギーだけではなくて水素エネルギー等々も含んだような内容に派生していただけるような、そんなご提案も次年度の企画会議のほうでさせていただきたいなと思います。

○ 村山繁生委員

ありがとうございます。

市としても、今年度から四日市コンビナートのカーボンニュートラル化に向けた検討委員会をやります。市長も水素事業に対してのしっかり支援もしていくということを言っています。私も代表質問で言いましたけれども、福島県の浪江町は、毎年小学校五、六年生、高学年に対しての水素学習をやったり、町民に対しても水素学習をやっている。本当に町を挙げて水素社会に取り組んでいるということをまざまざと私たちも見てきました。ぜひ将来のために水素学習を、今、ロシアとウクライナでこういう問題が起こっていて、原油はさらに高くなっています。わざわざ高い石油を買わなくても水素でやっていけばいいわけで、ぜひ、将来に向けてお願いしたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

それから、もう一点よろしいですか。

○ 森川 慎委員長

どうぞ。

○ 村山繁生委員

簡単に。中学校給食センターなんですけど、いろんな行事がコロナによって様々遅れておるんですけども、大丈夫ですか。工事はちゃんと完了しますか。

○ 森川 慎委員長

予定どおりできるかということです。

○ 稲垣学校教育課長

中学校給食センターにつきましては、令和5年4月の供用開始に向けて整備を進めさせていただいております。令和4年度につきましては、PFI業者が学校給食センターの整備を行うためにモニタリングを行うというふうなことに加えて開業準備業務に入りたいと思っております。また、引き続き受入れ校の配膳室とかエレベーターの設置も令和4年度中に完成する見込みでございます。この辺の工事については粛々と計画どおりに進んでおりますので、ご安心ください。進めさせていただいております。

○ 村山繁生委員

安心くださいということですけど、この4月から、木材にしても鉄骨にしても材料費が物すごい、資材が値上がりするんですよ。契約には資材の納入というか、購入の契約はもう全部済ませて、後で値上がりすると、増額補正をせなあかんことになってきやへんかということをご心配するんですけど、どうですか。

○ 稲垣学校教育課長

価格の高騰につきましては予想だにしないところではございますが、もちろんその辺りにつきましては、対価支払いのときに見込みを持って補正等を組んでいかなければいけないとは思いますが、今のところは想定内のところで準備をさせていただいているところです。

○ 村山繁生委員

そうすると、きちっと資材の契約はしてあるということでもいいんですか。これから何、今、よう分からんのだけ。

○ 森川 慎委員長

ちょっと分からないので、名前を名のってから。

○ 内田教育施設課副参事

教育施設課の内田でございます。

今ご心配していただいたところは物価上昇率とか、その辺の変更はどうなんやというお話だと思いますけれども、ただいまその辺も含めて事業者と協議中でございますので、ここで幾らとかという表現はできないんですけれども、当然、その辺については協議してまいります。

○ 村山繁生委員

資材の契約はまだしてないということなんですか、購入金額の。

○ 内田教育施設課副参事

内田でございます。

業者がということでしょうか。

○ 村山繁生委員

そういうことやわね、業者がですわね。結局こちらは業者に事業を委託するわけですから、その業者とは、きちっと資材を納入する契約を結んで、その金額でできるのかということ。後で市に対して、これだけ値上がりしましたから、また増額補正をお願いしますではあかんもんで、今のうちに契約できるものは全部しておいて、4月から値上がってもいようにできているのかなということ。

○ 内田教育施設課副参事

教育施設課、内田でございます。

事業契約した時期に比べて当然物価も上昇していますし、その辺については、契約の中でうたわれておりますので、その辺の金額については今事業者と協議中でございます。でするので、当然上がってくると見込んでおりますので、その辺の上がった分については、委員会の中でまたお願いしていく形になると思いますが、変更がないかと言われるとそうではございません。

○ 村山繁生委員

だから、結局はしてないということなんよね。例えば一つの工事が、これ、4月から上がりますから、もう今のうちに購入しておいてください、金額を決めておいてくださいと

いうところもあるわけですよ、そういうことができるわけでしょう。だから、給食センターだけじゃなくて、令和4年度、小中学校の大規模改修も結構あるじゃないですか。そういったものがみんな後から物価や資材が全部上がったからまた増額補正を全部しないといけないようなことは防げるものなら防いでほしいなということです。

○ 内田教育施設課副参事

教育施設課、内田でございます。

ご心配していただいた点については、当然事業者も今半導体の問題等がございます、納期の問題も含めて事業者のほうで契約等を進めていますので、当然。12月末ぐらいの完成予定をしておりますので、それに向けて現場も始まっていますし、それらの施工等も進めておりますので、事業者サイドとしては、もう当然契約も含めて進めている話でございます。

○ 村山繁生委員

打つべき手はちゃんと打っていただければそれで結構です。

○ 内田教育施設課副参事

内田でございます。

その中でやっぱりどうしても物価上昇というところがございますので、それについてはまたお願いしていく形になると思いますので、そのときはよろしく願いたします。

○ 森川 慎委員長

今の段階で想定される材料費なり、材料とか資材は購入しておいたら、その上昇があったとしても最小限に抑えられるんじゃないかということをも村山委員は言っていて、内田副参事は、当然物価の上昇があるので、そこはまだちょっと分からんけどという答えで、がちっと答えてないんですけども、そういう認識かなと思います。

○ 村山繁生委員

ほとんど上がる心配やね、これ。

○ 森川 慎委員長

そういうことですよ。

○ 村山繁生委員

全部増額補正になってきやへんかなと思って。

○ 森川 慎委員長

内田副参事、もう一回、今を含めて。

○ 内田教育施設課副参事

委員さんが言っていたのは、契約を早くすればその分抑えられるんじゃないかと、そのほうがいいんじゃないかということでご提案いただいたんですけども、その辺は、当然大枠の金額は決まっておりますので、それをいつ契約したかどうかというのではなくて、その上昇の話ですので、業者も契約金額を安く抑えたいというところで当然話を進めておりますので、それを幾らで契約したから幾ら上げるとかというものではございませんので、よろしくお願いいたします。

○ 森川 慎委員長

村山委員、よろしいか。

○ 村山繁生委員

契約のときの物価上昇分については、そういう契約になっておるから仕方ないという、でも、それを抑えられる手があるならそれをしてくれという。

○ 森川 慎委員長

そういうことが、契約はちょっと今つぶさには分かりませんが、可能かどうかぐらいはどうでしょう。

○ 内田教育施設課副参事

すみません、説明がちょっと分かりにくくて申し訳ございません。

あくまでも契約時に結んだ契約内容に基づいて事業者さんとは契約は進んでおります。それが幾らで契約しようが、それは事業者の中での話ですので、当然、俗に言う物価スライドとか、物価の上昇というところの話ですので、当然業者はコストを抑えて早く契約を進めたいということだと思いますけれども、私がちょっとお話しさせていただいたのはそういう上昇率のところ、契約にうたわれておる物価の上昇率というところですので、個々の契約については、事業者は早く契約しないと当然半導体不足等もございまして物も入ってきませんし、それも含めて契約は進めてもらっておりますし、実際に納期の相談も受けておりますので、その辺については着実に給食センターができるようにということと、今、村山委員が言われた金額については、早く契約したからどうこうとかというものではございませんので、物価が上がるというところの上昇率のことについては契約の中で協議をしていかなくちゃいけませんので、それについては、当然もう上がっていると事業者のほうから聞いておりますので、また精算してお願いしていく形になると思います。

以上です。

○ 豊田政典委員

だから、工事業者が発注する時期とか金額とかを聞いているのではなくて、後々契約上、物価が上がったり資材が高騰したりして追加で四日市市が払う金が増えるのではないかと、ということを言われていて、それを防ぐための契約条項を結ぶことはできないのかということを行っているんですね。今、実際、給食センターはどうなっているのかと。あわせて、大規模改修や改築があるので、これも契約の中で、物価が増えようが資材が増えようが、駄目ですよ、この時点の金でやるんだよということが増えるのかできないのか。

○ 広瀬教育施設課長

失礼します。教育施設課、広瀬でございます。

一般的に公共工事の場合、入札価格、こちらのほうで契約を行います。今ご心配いただいていますように全般的に物価が上昇してきている、そういったことが確認された場合、国からも物価上昇分は見込んで上げなさいよという通知が来ます。それにのっとり、その通知の適用範囲に合致すれば、当然変更、基の積算と比較しまして上がった分の補正をお願いするという、変更契約をするということは今までも行っておりますので、多分聞いたことがあるかと思うのですが、スライド条項という条項文が契約書の中にうたって

ございますので、その物価上昇が認められた分については増額の変更契約、あるいは、物価が下がった場合についても減額の通知が来た場合には減額の変更に応じてもらうという協議をしなければならないということになっておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○ 村山繁生委員

スライド条項はもう分かっておるんですよ。だから、業者がその都度、今の相場での契約、資材の相場に対しての契約だと思うので、それが上がることは確実なので、業者自体が手を打ってもらうとええかなという、そういうことを協議してもらえないかなということ、業者に対してね。

○ 森川 慎委員長

資材とかを発注するのは業者さんやで、その辺で、でも、物価が上がって、その通知が来るなら対応はしないとあかんわけですね、業者が幾らで買っておろうと。別に役所として資材を発注しているわけではないのでということだね。

○ 村山繁生委員

市との契約はもう仕方ないことやと思うんですね。業者に対して指導というとおかしいか分からんけど、そういうこともやってもらえないかということは、できることならね。できる範囲でできるだけ増額を抑えられるように業者に対して手を打ってくれということ、を言っているんです。

○ 森川 慎委員長

業者さんが幾らで買おうが、最初の入札の金額で契約をされておるので、それがマクロ経済の物価スライドの通知が来たら、もうそれはいや応なく応じなければならないので、恐らく市として、何かそこで業者が今の段階で契約して、何月に買うよりも想定より安く買っていたとしても、契約の金額の変更はできへんのと違うかなと思うんですが、そういう理解でどうですかね。

○ 広瀬教育施設課長

ご心配ありがとうございます。当然、業者のほうも、例えば今回上程させていただいております大規模改修工事につきましても、契約直後に当然現場を調査して、すぐに材料の発注にかかっていくと思います。そのタイミングにやはり業者のほうで手配したり発注もかけていく。委員長がご説明いただいたように、業者が幾らで買うというのは、やはり業者の企業努力にもよります。ただ、市として、取った業者に対して今このような情勢だから早いところ契約してはどうかというようなアドバイスとかはできると思います。ただ、契約条項にそういった文言をうたうというのは、申し訳ございませんができませんので、ご理解いただきたいと思います。

○ 村山繁生委員

よう分かっておる。そういった企業努力を、そういったアドバイスをお願いしたいということだけ。

○ 広瀬教育施設課長

ありがとうございます。そういうことをさせていただきたいと思います。

○ 森川 慎委員長

いろいろ十分に協議いただいて、補正なりの額が抑えられそうであったらご努力いただきたいなということでございますので、よろしくお願いします。

○ 土井数馬委員

文化財保護活用地域計画策定事業ですけれども、17の13ページ。違うの、まだか。

○ 森川 慎委員長

追加資料、いいですよ、大丈夫ですよ、少々戻っていただいても大丈夫です。どうぞ。

○ 土井数馬委員

目的なんかを見ているすと、担い手不足とか継承が危ぶまれているという、これはコロナ禍じゃなくても危ぶまれてきたことなんですけれども、本会議でも言いましたけれども、やっぱりコロナ禍で人が集まらないし、話し合いをしようにも集まらない、もうええぞとい

うふうな話になりかねやんよというふうなことを指摘しているんですけども、ここでこれが出てきたということは非常にいいなと思っています。これは国庫支出金ですので、国からのあれなのか、通知なんですかね、これが一つ、まず確認です。

それと、地域計画策定協議会の開催ってあるんですけど、これは今までこういうものはなかったのかが二つ。

それと、講演会の開催、この辺なんてシティプロモーションみたいな事業になってきているなど、前も一遍指摘しましたが、これを教育委員会の社会教育・文化財課でこういうふうなことがきちんとやっていけるのか、PRなんかをしていけるのかどうか、あるいは、シティプロモーション部と提携しながら進めていくのか、何か考えがあるのか。この三つ、ちょっと聞かせてください。

○ 伊藤社会教育・文化財課長

社会教育・文化財課、伊藤でございます。

まず、この文化財保存活用地域計画は、文化庁のほうからこの目的にも書かせていただいたような、今こういう状況であるということで、今まではどっちかという文化財の保存ということに主眼を置いていましたけれども、活用していくことで保存継承もされていくということで、各自治体のほうにこういった保存活用地域計画をつくっていきなさいよという指示を受けております。それに対して、つくることについては文化庁のほうから補助金を出しますよということになっております。この地域計画策定協議会につきましては、私どもはこの地域計画を令和2年度から令和4年度の予定でつくらせていただこうと今やっておりますので、この協議会も令和2年度に発足いたしまして、令和3年度、令和4年度とお世話になるということ、ご指導いただくということで進めております。

それから、私ども令和4年度から教育委員会からシティプロモーション部に移管されますので、こういった講演会であるとかいろんなイベントもシティプロモーション部や観光交流課とかが持ってみえるいろんな情報発信のツールも使わせていただいて、いろんなところで情報発信もさらにしていけるかなと考えております。

以上でございます。

○ 土井数馬委員

ありがとうございます。大体分かりました。

文化財というと今まで社会教育・文化財課のほうでやっていて、シティプロモーションみたいになんかちょっと揺れ動くときがあったんですけども、ここに出てきた地域の活性化や観光のツールという側面から見てこうやないかという、非常にいいなというふうに思っているんですけども、ここに文化庁か知らんけど300万円ぐらいでしょう、これでは何もできへん。だから、さっき言ったようにシティプロモーション部とかその辺とタイアップなりも、企画してそっちにやってもらうとか、やはりそういう話もして行ってほしいなというふうに思います。文化財で、日永のつんつく踊りなんかも3年前に400年記念をやろうという、コロナ禍でずっとやらずに、そうしたらもうなくなってきましたわ、やっぱり。そういうことがあるので、この協議会なんかでもやっぱりそういう場合、コロナ禍でどんなふううまく継承して伝えていくのかという話もしてほしいし、令和2年からやってみえるのでしたら、1回ぐらい中間で今こういうふうに進んでいると、最終的にこういうことかなというのが見えるような形でまた知らせていただくとありがたいなというふうに思っていますので、これは要望をしておきます。お願いします。

もう一つよろしいですか。

○ 森川 慎委員長

どうぞ。

○ 土井数馬委員

当初予算資料の、ちょうど次のページの図書資料整備費というやつですね。人権啓発拠点推進事業費というやつなんですけれども、この予算、平成30年度から令和元年度、令和2年度とあって、ほとんど予算額が変わっていないんですけども、受入れ冊数もほとんど変化がない。今回、資料整備費というふうにあるんですけども、今、新図書館の話が出てきているわけで、これはそれをにらんでいるのか、全く関係なしに今の図書館での発想でこういうふうに進めているのか、それがまず1点目ですね。

それと、内容のところ、地球温暖化対策についての啓発を目的とした企画展示会を行うという、関係資料を別途集めるんやというのがあったんですけど、さっき、村山委員のほうの水素の学習なんて、今、タイムリーなことを、地球温暖化なんてタイムリーな企画やなと僕は思うんですけども、ただ、どういう内容がいいかちょっと僕は分かりませんが、啓発というのであれば、恐らく何かパネルなり、そうしたコーナーを設けるん

じゃないかなと思いますけれども、それはどういうものを考えているか聞かせてほしいのと、ただ、図書館ですのでわいわいわいわいするわけにもいきませんし、展示したり飾ったりしておくんでしょうけれども、やはり司書の方だけで地域温暖化のことのいろんな資料を集めて説明することが果たしてできていくのか、やはり専門家というかコーディネーターみたいな人を呼んで、地球温暖化に対するあれや水素の問題が出てきてもうまく答えられるようなというか、ディスカッションできるようにしていかないと、答えるだけでは面白くないですから、やっぱりディスカッションできるような、最終的に地球はどうなっていくんやとか、そこまで話を遡っていけるような企画にしてほしいなというふうに思っておるんですけれども、そういう誰か、司書以外の方で、司書の方も優秀ですのでできるかもしれませんけど、そういうことも用意しているのかどうか、そこをちょっと聞かせていただきたいなと思います。

○ 高嶋図書館長

図書館、高嶋です。

まず、資料整備費のことですけれども、ご指摘のとおり、大体同じ金額で推移しております、受入れ冊数もそんなに変わらない状態でございます。

来年度につきましては少し増額されてはおりますけれども、やはり受入れ冊数としては多少しか変わらないかと思えます。これにつきましては、図書館の現在のスペースの問題もありますので、新図書館に向けてといっても大幅に増やすということは難しいかなという状態ではございます。

それと、もう一つご質問いただきました地球温暖化対策についての展示ですけれども、こちらは環境部の地球温暖化対策についての事業ということで、それを受けまして企画展示をするということで、これに関する資料を収集させていただくというものなんですけれども、まだどのような形になるかはあれですが、年度が変わりましてすぐに、5月ぐらいからの展示を予定しておりますので、それに向けましてご提案いただきました水素に関するもので、購入するのにちょうどいいような資料とかがあるかということもあるのですが、検討を重ねてまいりたいと思います。ご提案ありがとうございます。

○ 土井数馬委員

水素は村山委員がいるので後でよろしいですわ、それは冗談ですけれども。今の図書館

がそんなに広くないし、もういっぱいなので蔵書自体もそんなに変わっていかない。それはいいです。そういうことはよく分かっていますので。ただ、新図書館に向けて何か考えて進めているのか。今の答弁ですとそうでもないなというふうに思いましたので、それならそれで構いませんので、分かりましたので。

あと、企画なんかは今度の図書館なんかでもし考えるのであれば、こういう企画のようなものをきちんと整えていくとか、やはりやっていかないと、新しい図書だけどんどん入れていくというものでもないし、図書館はいろいろタイプがあるのでどうなっているのか分かりませんが、だから、こういう企画展なんかもちよっと先を見据えて一度、5月以降いろいろ計画してやっていただけるということなので、頭のほうの意識を置きながらやっていただくことをお願いしておきます。

それと、デジタル化資料閲覧サービス事業というのが図書館の運営費にあるんですけども、本会議でもデジタルのことが出ていましたけれども、これも次のやつをにらんでいるのか、今こういうのが必要だからということで取りあえずやるのか、これだけちょっと聞かせてください。

○ 高嶋図書館長

デジタル化資料閲覧サービスでございますが、こちら、入れさせていただくのが記載されております国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスと中日新聞、東京新聞の記事データベース、そして官報情報検索サービスの三つでございますけれども、特に目新しいというわけではないんですが、国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスは、例えば県内ですと県立図書館、桑名市、東員町、松阪市、志摩市が見られるように既にしております。中日新聞のデータベースですともっとたくさん、県立をはじめ、入れているところはありますが、うちの図書館も手狭なこともありますけど、新図書館に向けてこれは先立って入れていって準備もさせていただけるんじゃないかということで、まず手始めに入れさせていただこうというものでございます。

○ 土井数馬委員

デジタル化、どんどんしていくのか、やはり紙ベースのほうがいいのか、これは意見が分かれるところですけど、またこれはゆっくり議論したいんですけど、新図書館に向けて、デジタル化の資料閲覧サービスというのは、これは一応そっちを向いておるのやなという

のは分かりました。ちょっと参考に聞きたかっただけです。ありがとうございました。

○ 森川 慎委員長

以上で了解ですかね。

図書館のところがあれば、ここを出していただけるとより深まるかなと思いますが、よろしいでしょうか。

(なし)

○ 森川 慎委員長

他の項、ございましたら。

○ 笹岡秀太郎委員

ファイル110の215分の179、村山委員が質問していらっしゃいましたところの事業スケジュールについてお伺いしたいんですけど。

これを見ていると、受入れ校の整備の説明が、9校のうち7校が国の補助交付決定があったということで、あと残りの2校は何でなかったのかという、説明があったかも分からないけど。令和4年度工事を予定している9校のうち、三重平中学校から始まって朝明中学校の配膳室整備工事については国の補助金の交付決定があったのに説明の中では7校ですので、あと2校。

○ 稲垣学校教育課長

これにつきましては、エレベーターの工事が無いところでありまして、9校のうちでここに記載してあるところはエレベーターも含めての工事というふうなことになります。

○ 森川 慎委員長

ちょっと分かりづらいな。

○ 内田教育施設課副参事

教育施設課、内田でございます。

令和4年度の工事の9校というのは、エレベーターを設置する学校が7校、橋北中、港中、もともと今エレベーターがあるところについては2校ということで、その配膳室の改修工事ということで計9校になります。

国の補助の対象になるのはエレベーターの設置する学校ということになります。

○ 笹岡秀太郎委員

分かりました。国の交付基準に従ってそのエレベーターは、2校のところは必要なかったから決定がなかったと、こういうことやね。

そうすると、スケジュールが令和2年度から令和5年度まで書いてもらってあって、受入れ校整備で、令和2年度に設計が7校で、令和3年度に工事7校、その下に設計8校があって、令和4年度には工事が9校。この1校の差は、設計は必要なかった、こういうことですか。

○ 内田教育施設課副参事

教育施設課、内田でございます。

この学校は朝明中学校でございます。朝明中学校の大規模改修工事のときに続けてやる予定だったんですけども、その事業スケジュールがずれてしましまして、そのときに設計を導入しておりますので、あと残りのエレベーター工事だけを行うという予定になっております。

○ 笹岡秀太郎委員

そうすると、設計の8校は全体のいわゆる受入れ整備は要るけれども、残りの1校は先ほどの説明のとおり、付随したところでやったから要らない、こういうことですね。

○ 内田教育施設課副参事

そのとおりでございます。

○ 笹岡秀太郎委員

理解しました。

○ 森川 慎委員長

よろしいですか。

他に。

○ 豊田政典委員

あと三つあるんですけど。

○ 森川 慎委員長

長くなりますか。

○ 豊田政典委員

全部合わせれば。

○ 森川 慎委員長

もうお昼やで1回どうですか、続けますか。

じゃ、一番短く終わりそうなのを一つだけ認めます。

○ 豊田政典委員

全部短いんですけど、よろしいでしょうか。

小学校と中学校の授業連携ということでお聞きするんですけど、荻須議員が主張していた大矢知中学校のときに小中一貫校だというふうなことを言っていましたよね。それは教育委員会が言い出したというか、そういう記録が、記述があったと思うんですけど、今、小中一貫校ってあるの、ないの。名前だけでもというか、連携。

○ 森川 慎委員長

実施しているようなところがあるか。

○ 広瀬教育施設課長

学びの一体化という手法で連携型の小中一貫というふうに銘打っていますけど、小中一貫校という制度ではやってございません。

○ 豊田政典委員

学びの一体化なるものは、教職員の連携というか出張みたいな、そんな捉え方でいいですか、簡単に言えば。

○ 小林指導課長

学びの一体化についてご説明させていただきます。

学びの一体化というのは、基本的には研修とかいろいろな校区での活動を保幼小中の連携というような形でそれぞれ計画を立てていただく。そして、その校区でみんなが例えば研究主題に向かって一つのことを取り組んでいこう、そういうようなものを学びの一体化。そのほかにも、中学校から小学校のほうに教員が出前授業のような形で行って、例えば、体育だけはこの期間は中学校の先生が来て中学校とはどんなものかというものを感じながら、段差のない入学、小学校から中学校、または保幼から小学校というような取組のことを学びの一体化と言っております。

○ 豊田政典委員

それは全校で実施している、全校ではないのか。

○ 小林指導課長

全校で実施しております。

○ 豊田政典委員

それはそれで分かりましたが、最近報道で読んだような気がするんですけど、小学校に教科担任制をという動きがあるやに聞くんですけど、この先の学びの一体化に関するのかどうか分かりませんが、授業の在り方が少し変わってきたり連携が深まったりとか、そんなことがあるのかないのかよく分からないので教えてほしいなと思って。

○ 小林指導課長

学びの一体化の中で教科担任制の研修校を募って、今現在2校、研究のほうを進めていただいております。

その中で、教科担任制は中学校では当たり前というような中で、中学校とも連携を深めながら、中学校の在り方も含めて何が一番いいかという、小学校は担任だけで授業をやっているわけなんです、教科担任制になると複数の目で子供たちを見ることができる。イコール、生徒指導面、それから、学校全体で子供たちを支える、昨日から言っていますが、組織で子供たちを見ろという意味ですごくプラスになる。そして、そのほかにもそれぞれ先生が、例えば3クラスありましたら、1組の担任の先生が社会全部、3クラスとも、2組の担任の先生が理科全部、3組の担任の先生が体育全部というような形で持つことによって、先生方も——得意かどうか分かりませんが——一つの教科を教材研究も深めながら、子供たちにとっても深い学びを提供できる、そういうような利点がございまして。

国のほうからも指示がありまして、令和4年度から完全実施なんですけれども、四日市としましては、教科担任制につきましては令和3年度から今現在行っているというような状況でございまして。これについては、今までやったことがないので小学校も抵抗はあったかとは思いますが、やってみることによってそれぞれのよさというのが見えるようになって、来年度からは高学年のみで本格実施ということで考えております。

○ 豊田政典委員

分かりました。ありがとうございます。この項は終わり。

○ 森川 慎委員長

ちょうど午前12時なのでもう休憩しましょうか。

今の今のお話の中で何か追加で聞きたいこととかご意見がありましたら。

よろしいですかね。

そうしたら、一旦ここで休憩を取らせていただいて、午後1時から再開させていただきますので、よろしく願いいたします。

11:58 休憩

13:00 再開

○ 森川 慎委員長

それでは、午前に引き続き会議を再開させていただきたいと思います。

豊田委員が途中でしたので、豊田委員からどうぞ。

○ 豊田政典委員

次の項目でよろしいですか。

○ 森川 慎委員長

どうぞ。

○ 豊田政典委員

具体的には習熟度別授業についてお聞きしていくんですが、さきの代表質問で、青雲会、三木議員のほう代表質問をしまして、うちの代表質問は原稿を分担して書いております。あれは私が書きました。頭にきた内容だったかもしれませんが、三木議員に発言してもらったように公立学校の宿命かもしれませんが、習熟度、学力によっての差があるから、授業がつまらなかつたり分からなかつたりという、そういう課題があると思うんです、今でも。そこで、一つの解決策というか対応として習熟度別授業というのを何年前からやっていたんですが、今現状どうなっているのか。改めて教えていただくところから質問していきます。

○ 小林指導課長

習熟度別授業ですが、少人数授業ということですよ。これについては、今現在も各校で算数を中心に行っています、数学・算数を中心に。

○ 豊田政典委員

それは小中学校で算数・数学をやっていると。それ以外はやっていないのか。

○ 小林指導課長

中心にということで、すみません、ほかの教科も各学校によって違いますが、少人数加配等を使って行っております。

○ 豊田政典委員

そうすると、学校の教室数によって教室が足りないからできないとかという事態もかつてはあったと思うんですけれども、それから加配の話をされました。先生がいなければできないので、できない場合もあると思うのですが、その辺をもう少し補足してください。

○ 小林指導課長

現在、全部の小学校、中学校で何らかの形では行われております。教科に関しましては、先ほど算数・数学中心とは言いましたが、そこを中心に違う教科も複数やっている場合があれば、また、違う教科でやっているというのもございます。

先生の数に関しましては、加配があるなしに関わらず、そこについてはそれぞれの学校の配置された、例えば中学校であれば教科の中で、この教科であれば少人数授業ができるというような教科担当の数によってもそれぞれ行われるわけなんですけれども、これについては、今現在どこの学校からも効果的な授業であるというような評価をいただいていると思っております。

○ 豊田政典委員

効果はあるということでしたが、その前に習熟度は当然少人数になると思うんですけれども、ただの少人数もやっていたやんか、前。私が聞きたいのは習熟度別授業ですよ。

○ 小林指導課長

全てが習熟度とは限りません。

○ 豊田政典委員

それで、最初に言った公立学校の課題の一つの対応として今話題にしているんですけど、習熟度別授業は効果があるというのであればより拡大拡充すべきだと思って聞いているんですけど、さっきから言っているように、学校によって、校長判断もあるんでしょうが、教室がないからできないとか、先生いないから、足りないからできないとか、そういうことはあるんですか、ないんですか。

○ 小林指導課長

教室数が足りないのではというのをごさいます。ただ、その場合には少人数授業はできませんけれども、ティーム・ティーチングのほうで一つの授業に複数の教員が携わるというような形で行っております。

○ 豊田政典委員

習熟度別授業の話をしているのでT Tの話は関係ない。また別の授業手法ですよ。

だから、課長はその効果はあるというふうな捉えをしているのであれば、教室を増やせと、広瀬課長に簡単に言うのは無理な話ですけど、できる環境を整えてほしいし、加配なら市単でも何とかなるのかなと、もう少しハードルは低いかないかという気もするし。最近あまり聞かんもんで、始めた頃に比べて。教育民生常任委員会にいなかったせいも分からんですけど。導入の頃は子供の中にも保護者の中にも不安はあったと思うんです、何で俺はそっちなんだとかね。それはもうクリアされたということで理解しますので、充実、拡充してもらうことによって学習効果が高まるんじゃないかと僕は思うんですけど、将来のこと、今後のこと、新年度のことも含めて、もう一回だけ答えてください。

○ 小林指導課長

習熟度別授業というのは、以前に比べれば増えてきております。今、T T、それから少人数でくくりいろいろな話をしましたが、今委員がおっしゃってみえるのは習熟度というようなことに関係してということで、それについては、学校によっては自分で選ぶとか、教員のほうから振り分けるというわけではなしに、基本からやりたいという子はこっちのクラスで、普通よりもちょっと発展的な内容も含めた授業であればこっちのAコースを選びなさいというような形で、子供たちが選ぶような授業展開を行っております。また、タブレット等も入ってきましたので、そこについては個別最適な授業についても今後は発展していくのかなと考えております。

○ 豊田政典委員

分かりました。

自分で選ぶというのはなかなかいいかなと思いました。

それに関連して、資料110ファイルの186ページの一番上、個別学習支援ソフトの話なんですけど、前に所管事務調査のときに小規模校の話をしたら、教育長からかな、このソフ

トを新たに導入するので、少人数のデメリットの一つの解決の手だてになるのではないかと期待しているみたいな話でしたが、もうちょっと詳しく教えてほしいんですけど、個別学習支援、つまり、子供の学力レベルに応じた何かのプログラムがあるのかという想像を勝手にしているんですけど、そんなことでいいの。

○ 稲毛教育支援課長

教育支援課、稲毛でございます。

今回導入を予定しております個別学習支援ソフトウェアですけれども、特に算数・数学においてはAI機能が搭載されているものを採用しようと思っております。それによりまして、子供たちが例えば朝の学習の時間であるとか、授業の最後の振り返りの時間にこれを使うときに、問題を解いて間違っただけじゃなく、もう一つ前の段階の問題が出てくるであるとか、そういった形で子供さんの学力に応じた問題が提示されます。子供たちはそれを解きながら自分が今どれぐらいの学力がついているのか、そして、そのデータを先生方も見ることができますので、そういった意味で個別の能力というか、それぞれの学力に応じた学習が進められるという、そういったソフトウェアになっております。

○ 豊田政典委員

その活用の仕方、使い方は、家庭ではどういう活用を想定しているのか。また、学校でというのも書いてあるので、授業でも使うんですか、どういうふうにするんですか。

○ 稲毛教育支援課長

教育支援課、稲毛でございます。

今申し上げましたように、例えば朝の時間帯にこれで復習というか、学力補充に使うこともできますし、それから、例えば算数なんかの授業の最後の10分ほどこれを使って復習をすることもできますし、来年度は家庭にタブレットをもっと持ち帰っていただくと思っておりますので、宿題としてこことここをやってきなさいということで活用することも可能です。

○ 豊田政典委員

分かりました。

最初に言った課題をクリアできる、よりみんなにとっていい授業ができる、学習できる
といいなと思ってお聞きしたので、また来年度期待しております。この項目は終わりです。

○ 森川 慎委員長

今の学習のレベルによってとかというような話とか家庭の学習とか、そういったところ
で関連するようご質問がございましたらここでお受けしたいと思います。

(発言する者あり)

○ 森川 慎委員長

それもいいです。

○ 中川雅晶委員

I C T活用による学習環境整備事業というところで、個別学習支援のソフトウェアの導
入というのはよく分かるんですが、もう一つ、四日市市はG I G Aスクール構想の中で共
同的な学習というところに大きな旗印があるんですが、その施策はどの部分ですかね。

○ 稲毛教育支援課長

教育支援課、稲毛でございます。

共同学習に使うツールとしましては、既に子供たちのタブレットにそのシステムを入れ
てございますので、それを活用することがこれからの課題というか、活発に活用してい
ただくことが共同学習につながるんですけども、共同学習の中で例えば動画を使うであ
るか、今後デジタル教科書を使うであるとか、より活用が広まるとネットワーク環境の弱
さが課題になってまいりますので、そういった意味で、本年度は186ページの6番に拡充
ということで出させていただきましたけれども、インターネットの接続環境の増強とい
うことで、かなり増額した予算をいただきましたので、これをもってしてスムーズに外部と
も接続でき必要な資料が取れる、そして学習に活用ができ共同学習につながるという
ような環境をつくろうと考えております。

○ 中川雅晶委員

この大型提示装置、ディスプレイですかね。これも共同学習に使うというところのイメージと、それから、学校の連携というか、他県とか他市とか、また、市内の学校で連携したりとか、また、午前中も出ていた企業との連携とかということも含めてイメージすればいいのかなどか、ちょっと確認だけ。

○ 稲毛教育支援課長

教育支援課、稲毛でございます。

各教室の大型提示装置は既に配備が進んでおりますので、今後それを活用いたしまして、いつぞやの委員会でもご紹介させていただきましたが、他校あるいは海外とつながった授業をどんどん進めてまいりたいと思いますし、企業さん側もこのコロナ禍の中で社会見学になかなか行けないというところで、幾つかの企業さんはオンライン社会見学を計画していただき、今年度、数校で実施しておりますので、そういったところでこのICT環境を活用していきたいということも考えております。

○ 中川雅晶委員

ぜひ活用促進していただきたいなというところと、あと、個別学習も、このソフトは確かに効果があるというふうには思いますが、私は前から言っていますけど、これとプラスやっぱりいつでも自分の不得手なものであったりとか、さらにもう一度聞き直したいとかというところのデマンドのソフトであったりとかデマンドの接続とかという環境整備も個別学習においては必要な部分かなと思うのですが、その辺は今回も盛り込んでいるのか、来年度以降に課題としているのか、どうでしょうか。

○ 小林指導課長

デマンドということで、動画配信等もというようなことで理解させていただければよろしいでしょうか。

昨年度から入れております学んでE-net!、これについては、各教科、それから教科書会社別にソフトが入っているんですけども、そこに四日市ならではの動画配信コーナーがございます。例えば、今のYEFの先生たちが四日市のことを英語で紹介するので授業にも使えるようなもの、それから、それぞれ算数とかそういうのでちょっと子供たちが苦手なところを、これはちょっと古いものなのですが、教育委員会の者でつくっ

た動画とかがございます。ぜひこの辺についても発信していきたいなと。

さらには今年度、THE BENRONは中止になったんですけれども、準備していたでいて、その動画で配信をしたい子についてはどうぞということで、そこにも数名応募していただきました。これについては、THE BENRONでその子たちが出られるというだけじゃなしに、それを見て自分たちもこんな姿になりたいな、そういう姿を追うためにもそういうような動画配信のほうはさせていただいております。

今後も充実していけるように努力してまいりたいと思っております。

○ 中川雅晶委員

今言われたやつも有効かなと思うんですけれども、特に小学校というよりも中学生を僕は結構イメージしているんですが、どうしても中学生が重要なものって——全部重要なんですけど——例えば数学において、これはやっぱりという部分があったりとか、英語においてもそうですけれども、そういうようなものを教育委員会独自でとか、教育委員会の中でそういった動画作成とかを積極的にしていくというのも、時代とともに変えなきゃいけない部分もあるし、そのまま変えなくてもずっと引継ぎできるものもあると思うんですけれども、そういったものを蓄積していくというのは大切じゃないかなと思いますし、そういうことが次の世代の子供たちにもしっかりと活用できるものであれば積極的にそういうものを蓄積していく努力をぜひしていただきたいなと思うんですが、その点はいかがでしょう。

○ 小林指導課長

もちろん増やすというのも一つの方法だと思うんですが、例えばNHK for School、これなんかは例えば理科であれば抜群の教材でございます。そういうのを紹介して、一流のプロがつくっている部分、もちろん無料で見られる、そういうようなところも紹介していきたいなと考えております。

○ 中川雅晶委員

NHKのやつは誰でも好きなときに見られるような状態になっているということですか。

○ 小林指導課長

それは見ることができます。

○ 中川雅晶委員

多分授業とかでも先生が活用されて、それをやられているというのをちらっと聞いたことがあります。生徒もそれをまた個別で見るということができるわけですね。そういうのをどんどん、生徒は知っているのかどうか分からないですけど、知っているんですね。ぜひ皆さんにそういうのを活用するというのを促すというのも一つの大きな個別学習かなと思いますし、もう一つ、個別学習でそれぞれのスタンスでそれぞれのところで学習するというやり方もありますし、例えば長期の休みとかを利用して、個別学習で分かった苦手なところとかを振り返ったりとか、極端に言えば、学年を大きく遡ってもう一回やり直すとかってなるような補充授業とか補習授業とかというようなものを確立するというのも考えの一つかなと思うんですが、その点はどうですか。

○ 小林指導課長

先ほどご紹介させていただきました学んでE-net!というもの、その中には先ほどご紹介させていただきました四日市市のオリジナルも入れてあるんですが、これについては、小学校1年生から中学校3年生まで学習することができます。といいますのは、この教科書のこのページ、この単元であればこの問題というので、例えば外国籍で入学された方については、いきなりその学年の学習は難しいなというのであれば、遡って小学校のところから学習するというような形で自分で選んで学習することもできますし、その子のレベルが分かればここの辺りを勉強したらどうかなというようなことも教師のほうから指示ができますので、そういうようなものを今準備しておりますので、これについても各学校でさらに取り組んでいくようにしていきたいなと思います。

○ 中川雅晶委員

ぜひ深めていただきたいなというふうに思います。

それから、ICT活用実践推進校の設置というところで、今年度も指定をするということで資料を頂いているんですが、これも最初に導入したときに小学校3校を指定しておられるんですが、これとは別に新たに指定をするという意味合いなんですか、それとも継続するという意味合いなんですか。

○ 稲毛教育支援課長

教育支援課、稲毛でございます。

小学校3校、そして中学校2校を現在指定しておりますが、それぞれ3年間の指定ということでスタートした事業でございますので、来年度、小学校が3年目を迎え、中学校は2年目を迎えますので、この学校につきましては、先進的な大学の先生等の指導もいただきながら、より授業が協働的に深まるような実践研究をしていただいておりますので、引き続き来年度、そして再来年度は中学校ということで継続をいたします。

○ 中川雅晶委員

分かりました。

ということは、来年度3年目を迎えて一つの答えというか、報告が出てくるというふうイメージしておけばいいわけですね。分かりました。こういうところからもまた新たないろんな環境整備についてとか、ぜひいろんな形でノウハウの蓄積をいただきたいというふうに思います。

あと、最後に、代表質問で申し上げたんですが、ICTの活用を、不登校のやつはこの間伺ったんですけれども、それぞれ特性のある障害のある子供たちとかに、これはそれぞれなかなかオーダーメイド的なこともあるかもしれないですけれども、その辺の検証とか研究とかというのはどうなんですかね、進んでいるんですか。

○ 稲毛教育支援課長

教育支援課、稲毛でございます。

オーダーメイド的な研究というところまではできているかどうかというとなかなか難しいところではございますが、例えば来年度導入する個別学習支援ソフトウェアは、先ほど小林課長から申し上げましたように学年を遡って学習することができますので、そのお子さんに応じた学年の教材ということで使うこともできますし、また、1人1台タブレットが入ったことで様々なソフトウェアを今特別支援学級で活用したり、また、電子教科書ということで、そういった特性に応じたソフトウェアの活用が今どんどん進んでいるところでございますので、そういった活用実践の状況を集約しながら全校に周知してまいりたいと考えております。

○ 中川雅晶委員

どんどん民間企業もいろいろ特性に合わせて活用を模索しているところがあるので、そういう情報をキャッチしていただいて、使えるものはどんどん使っていただけるように、学びの保障をぜひ確立いただきたいなというふうにお願いをしておきます。

何か忘れていたような気がするんですが、以上で終わります。

○ 森川 慎委員長

思い出したら言ってください。

I C Tの関連とかで何かありましたら、よろしいですかね。

それでは、別項に移っていただくのに豊田委員、どうぞ。

○ 豊田政典委員

私から最後の質問ですけれども、1月に議員説明会があって、組織機構改編の説明がありました。その際に、教育委員会に関係があるのは少し出ている文化財関係が市長部局のシティプロモーション部という話が出たんですよ。私、質問したんですけど、教育委員会の方はみえなかったのが代わりにというか、市川副市長に私が担当ですと言って答えてもらったんですけど、改めて教育長にお聞きするんですけど、法律で決まっている教育委員会の所管の事務が四日市市では――ほかの自治体は知りませんが――少しずつ市長部局に移ってきました。古くは社会教育の公民館業務、それからスポーツ、そして幼稚園、今回は文化財、さらに言えば、新図書館についてはなぜか政策推進部がずっとやっていて、教育委員会は蚊帳の外とは言いませんけれども主体的ではないと。こういう流れをどういうふうに捉えておられるのか。この際聞いておきたいなというのが最後の質問です。

○ 廣瀬教育長

教育長、廣瀬でございます。

新図書館については、今後どんな内容の図書館にしていくのかについては教育委員会が主体となって検討していくというところはございます。それから、先ほどご質問もあったとおり、公民館活動、スポーツ、文化、就学前教育、特に幼稚園の件ですけれども、学校教育と切っても切り離せない関係にあることはもう重々承知をしております、例えば幼

稚園教育も先ほどの新教育プログラムにありましたとおり、保育園も含めて就学前から一体となって方向を合わせて教育活動を進めていく必要があるので、連携は絶対していかなくちゃいけないこと、それから、スポーツについても令和5年以降の部活動の地域移行、こういった考え方の中ではスポーツ課と一緒に地域活動の展開を図らなければいけない、公民館活動についても、学校教育、先ほどのコミュニティスクールの関係もごさいますけれども、そういった地域の方々のいろんな支援を受ける、こういったところについては地区市民センターの地域マネージャーさんや館長さんと共にいろいろ教育支援についてはご協議願ったり、そういった必要もごさいます。それから、文化財、社会教育、特に社会教育という点については、学校とも切っても切れないところですので、今後とも連携を深めていく、文化財の活用については、活用という観点から、教育的な観点から、昨日からご議論いただいているのびゆく四日市のところにはたくさん盛り込んでいく必要がごさいますので、そういったことで小学校も中学校も地元教材として活用していく、こういった観点からどうしても連携をしていく必要がごさいますので、連絡を密に取って情報共有させてもらって学校教育に生かしていきたいと考えてごさいます。

また、学校教育の側からこういったところも一緒に参画させていただきたいということも今後あると思いますので、その辺りは積極的に関わっていきたいと考えてごさいます。

○ 豊田政典委員

学校教育の関連性というのはよく分かるし、おっしゃるとおりだと思うんですけども、補助執行なんですか、全部。ということで、実質的な業務は市長部局に移っているというところで、今までよりも連携という言葉を使わなければいけないほど薄くなる危険性があると思うんですよ。こんなことは聞かんほうがいいんでしょうけど、悔しいのか、取り返せよとか思ったりするのかというのは聞きません。それはもう行政全体の話合いの判断なので。だから何が聞きたいんでしょうね。何が聞きたいのか分からんけど1回聞いてみたかったんですよ。また、別の機会に聞きましょうか、こういう場じゃなくてね。

もう最後なので、私の中で、今日は教育長、少しというか、昨日より大分しゃべってもらっていますが、一番しゃべりたがってそうな内村教育監がしゃべっていないので、今の話に何か思いがあったら教えてほしい。

○ 内村教育監

教育監の内村でございます。

今の話というところでお話しさせていただきますと、やはり市全体の中で考えていただくということで、例えば今回の文化課へ移行するという点に関しても、シティプロモーション、市民への周知といいますか、市民への働きかけというのは教育委員会よりも可能性はあるのかなというふうに思っておりますので、ぜひとも市全体でその強みを生かしていただきたいなというふうに思います。

ただ、一方、おっしゃるように教育委員会との関係性が薄くなるということを危惧しますが、そうならないような手だてというのは打っていく必要があるのかなというふうに思っております。それは学校からも積極的な働きかけが必要だと思いますし、今後、ICTの活用なども生かしながら、学校と学校外をどうつなげていくかというのは今後のICTの活用、学校のありようということに関しても非常に重要だと思っておりますので、いい糸口にはさせていただきたいなというふうに思っております。

以上です。

○ 豊田政典委員

以上。

○ 森川 慎委員長

今のご議論を聞いて何かありましたらここを出していただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(なし)

○ 森川 慎委員長

じゃ、別項でも結構ですが、残っていたらどうぞ続けてください。

○ 中川雅晶委員

小学校の給食費の公会計化で何がどう変わるのか、もう少しひとつ具体的にご説明いただければと思います。

○ 稲垣学校教育課長

公会計化で大きく変わるのは、今までは学校を経由して給食費——すなわち食材費に当たるわけなんですけれども——として納めていたものを今回は口座振込申込みによって保護者が直接市に振り込んでいただくというふうな格好になります。その振り込んでいただいたものをもって食材調達等に使わせていただくと。一番大きな違いはそこかなというふうに思います。

その後、未納であったりとか、その辺りの督促につきましては、これまでは学校の先生にお世話いただいていたのを市が責任を持って行っていくというふうなこと、これが大きな違いでしょうか。

○ 中川雅晶委員

未納の場合は教育委員会で徴収されるんですか。例えばこれが当年度はそれでいいかもしれませんが、過年度とかでなかなか徴収ができない場合の滞納整理とかというのも教育委員会で完結するのか、別のどこかに移管したりとか——収納推進課でしたかね——市の滞納整理と同じような形にされるということなののでしょうか。

○ 稲垣学校教育課長

これは市の滞納整理と同じような形に最終的にはなっていくんですけれども、そこまでの督促、過年度についての追っかけについては教育委員会のほうでやらせていただきます。

○ 中川雅晶委員

当面は教育委員会の中で徴収業務をやるというふうに理解すればいいわけですかね。

○ 稲垣学校教育課長

そのとおりです。

○ 中川雅晶委員

それからもう一つ、学校業務サポート事業で、いろいろ保護者の方への連絡等のシステムの導入とか、校務支援システム、高性能コピー機の活用とか、いろいろ昨日もちょっと議題になっていましたチーム学校のところでちょっと話をさせていただきましたけれども、

教職員の働き方改革とかというところの一助になる部分かなと。先ほどの小学校の給食費の公会計化も働き方改革の一部だというふうに私は考えているんですけど、こういったものの、いろんなメニューが出てきていますけれども、これをしっかりとどれだけ、削減という言い方をしたらあれですけど、効率化できたか、これだけ予算を使ったことによってどれだけ学校の教職員が本来の子供たちへ向かう時間であったりとか余裕であったりとか、また、学校の中でお互いのスキルを向上させるような取組に至ったかというような検証をしていく必要が僕はあると思うんですけど、その辺はどうでしょうか。

○ 稲垣学校教育課長

働き方改革は、すなわち教職員の総勤務時間の縮減、この総勤務時間が減ったか減らないかというふうなことについては、あくまでも指標、目標の一つではありますが、教職員の健康管理、それと教職員のやりがい、その両面をもって検証をしていかなければいけないと思っておりますので、総勤務時間の縮減に至った検証もしなければいけないであろうし、教職員の満足度についても併せて調査をしていかなければいけないと思います。その二つをもって検証等をさせていただくようにしたいと思っております。

○ 中川雅晶委員

単に効率化するといった時間の短縮だけではなくて、これも何かどっかで聞いて、僕もなるほどなって思いますが、単に時間の効率化の働き方改革ではなくて、働きがい改革じゃないですけど、働きがいをいかに多く持っていただくか、持っていただかなきゃいけないような職場ですので、ぜひ今のような視点で検証いただきながら、また、昨日もちょっと申し上げましたけど、保護者であったりとか地域にこの重要性、四日市が進めている働き方改革がやがては子供たちの教育、教員の働きがいに結びつき、子供たちの未来にとって有益になるということをやっぱり理解していただくというのも両方で進めていかなければ、単に学校だけがどんどん効率化して、何か自分らに押しつけられているようなイメージになると最悪ですので、そうならないように工夫していただくようお願いしたいと思うんですが、それはどうでしょうか。

○ 稲垣学校教育課長

先ほど、議論の中で部活動の話もあったように、これを学校の先生が今まで当たり前に

慣例的にやってきたこと、しかし、またそれはやりがいを持ってやってきたとか、そういうふうなこともあるわけです。やりがいや責任感や使命感、そんな中で勤務時間がどんどん膨大化していったわけなんですけれども、それを地域移行であったりとかチーム学校というふうな名の下に地域の協力者と協働しながらというふうなことで、お互いがお互いのやりがいを持ちながら、それでできる限りウィン・ウィンになるような関係づくりを構築する、それを探っていくことも働き方改革の一つの大きな課題かなというふうに思っております。

○ 中川雅晶委員

ぜひ本格的な働き方改革に向けて着手していただくことを希望したいと思いますし、コロナ禍を受けていろんなものを見直すいい機会にもなっているという部分、マイナスなことではありますが、そういうところを変毒為薬するような施策展開に、地域との関係性も、必要なものとこれはもうというものを整理するいい機会でもあると思いますので、ぜひその辺も精査していただけるように併せて言っておきますので、よろしく願いいたします。

以上。

○ 森川 慎委員長

他にいかがでしょうか。

○ 日置記平委員

中川委員から今言われた給食滞納というのは、給食代のことですか。

少し教えてくださいませんか。給食費を払う生徒さんの滞納率ってどれぐらいなんですかね。

○ 森川 慎委員長

今現状で滞納をされている生徒さんの割合とかというのはどのぐらいかというご質問です。

○ 多賀学校教育課副参事

学校教育課の多賀と申します。

収納率のほうになるんですけれども、99.98%とか99.97%とか、それぐらいの割合にな

ります。

○ 日置記平委員

例えば給食費というのは、3月の給食代は4月に納付されるんですか。それとも3か月一括で払うとか。

○ 森川 慎委員長

給食費を今どういうふうに徴収していただいているかというところですね。

○ 多賀学校教育課副参事

学校教育課の多賀と申します。

現在、4月・5月分の給食費は5月にお支払いいただいています。その後1か月ずつお支払いいただいているような部分になります。

○ 日置記平委員

4月・5月は5月に払う。

○ 森川 慎委員長

入学をするのでということで、多分その辺……。

○ 多賀学校教育課副参事

6月は6月、7月は7月という形になります。

○ 日置記平委員

4、5月だけ特別ね。99.98%、純金の純度に近いけど、そこでちょっと心配になったのは、払えない子は常に払えないのではないかなという気がした。すると、極めて僅かの子供さんの家庭が支払いに苦慮しておられる生活環境にあるということだと思います。習慣的に払うのを忘れるとか何とかいろいろあるんですが、これは振込ですかね、それとも学校へ持っていくんですか。

○ 多賀学校教育課副参事

基本的に口座振替になります。

○ 日置記平委員

そうすると、児童生徒さんには誰が払ってないか、遅れているかということは分からないという環境にあるんですね。

○ 多賀学校教育課副参事

そうです。

○ 森川 慎委員長

今そうなっているということですね。

多賀副参事、もう一回ちょっと整理してください。

○ 多賀学校教育課副参事

現在もそうなっておりますし、公会計化の後もそのようにさせていただきます。

○ 日置記平委員

そうすると、未払いのチェックはどなたがされるんですか。

○ 森川 慎委員長

今とまた公会計後も含めて答えていただけると多分いいと思います。

○ 多賀学校教育課副参事

現在は、その収納事務を学校で担っておりますので、一時的には担任の先生にいただいています。公会計化後につきましては市のほうで収納いたしますので、教育委員会で担うこととなります。

○ 日置記平委員

今でお尋ねしたかということ、時節、家庭の経済に影響することなんですが、家庭の困窮

程度が子供さんに影響して、これはその中で未払いの子がいろんな形で影響を受けることが心配で尋ねました。ですから、平等とか不平等とかではなくて、やっぱり生活保護を受けてみえる家庭とか、あるいはそれ以外にもろもろの家庭状況があるでしょうけど、子供さんの学校での生活環境に影響を与えないような、そういうシステムになっていけばええかなということ少し心が動かされましたので尋ねたんですが、そうすると、担任の先生は、今度はその子供さんにいろいろどうしたの、こうしたのということを直接言われるのか、家庭と連絡を取りながら子供さんはノータッチでされるのかは、それは先生に任されているんだと思うんですが、いずれにしても、こういう環境の中で先生も、ここへもまた一つそういう子供さんの家庭があれば、担任の先生は心を置いた目途にもなりますし、実際に私も見たことはないし経験もしたことはないから分からないけど、これも教育の一環でありますので、担当課のほうでその辺のところ、一つ間違っただけで子供さんの登校拒否やらそういったことにもつながっては大変気の毒なので、どうぞひとつ、よりよい方向に導いてあげていただきたいとお願いをしておきます。

○ 稲垣学校教育課長

ありがとうございました。今までもこれからもそうですが、子供に罪はございませんので、子供のほうに不利益が行かないように最大限の配慮を、これは学校も教育委員会も。これから教育委員会の所管になりますもので、そのことについても十分な配慮をして進めていきたいと思っております。

○ 日置記平委員

よろしく申し上げます。

○ 森川 慎委員長

他にいかがでしょうか。

(なし)

○ 森川 慎委員長

そうしたら、ご質疑はありませんので、ここまでとさせていただきます。

それでは、これより討論を行ってまいります。

討論のある委員の方は挙手にてご発言をお願いいたします。

(なし)

○ 森川 慎委員長

なしのお声をいただきましたので、これより分科会としての採決を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

なお、全体会へ送るか否かは採決の後にお諮りをさせていただきます。

それでは、反対表明ありませんため、簡易採決により行っていきます。

議案第73号令和4年度四日市市一般会計予算、第1条歳入歳出予算、歳出第10款教育費、第1項教育総務費（関係部分）、第2項小学校費、第3項中学校費、第4項幼稚園費（関係部分）、第5項社会教育費（関係部分）、第2条債務負担行為（関係部分）につきましては、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

ご異議なしと認め、本件は可決すべきものと決しました。

それでは、全体会へ審査を送るべき事項について、ご提案がございましたら賜りたいと思います。

○ 豊田政典委員

昨日、学校校舎改築改修にまつわる基金のお話をさせてもらったんですけど、提案しようかどうか迷っているというか、皆さんと相談した上で、ご意見を聞きながらなんですけど、これからアセットマネジメント基金に統一されていって令和40年までに1673億円、改修や改築、その他の財源にするという資料をいただいたんですけど、まず、アセットマネジメント基金の使途がどれだけ明確化されているのかというところが気になるのと、本当にというのは変ですけど、これが明記されていればいいんですけど、令和16年度以降の校舎改築に果たしてどれだけ使えるのか、100%使えるのかという問題とか、あるいは、1673

億円というのが現時点での令和42年までの総額なんですけど、一方でアセットマネジメント基金残高は、今現在、令和4年度予算でも約113億円しかない。令和16年度までに200億円を積んだとしても、足りるのか足りないのか、私の頭では計算できないんですけど、アセットマネジメント基金自体の積立てペースがこれでいいのかという気もするし、教育委員会だけのことを考えて、1673億円という、例えば学校施設に予算を毎年毎年獲得してくるというのなかなか大変な労力が要るのかなと思ったり、大規模改修だけでも新年度に16.4億円の予算があるんです、高花平小学校の改築は別にして。そんなことを考えると、学校施設整備、校舎改修改築、給食センターも今回あるし空調整備もあります。特化した基金が必要なのではないかと思ったり、教育予算を確保するという意味で、そんな考え方もないわけじゃないのかなということと、もう一個全く別の話で、昨日お話ししましたが、長寿命化計画を立ててもらっていて中期計画はあるんですけど、果たして長寿命化計画という計画が、例えば長過ぎるんじゃないかと。高花平小学校や笹川中学校の話をしましたけれども、ハード的に何年も使えるよという以上に子供の教育環境を考えたときに中身についても見直されるということですけども、もう少し我々も精査すべきではないかという思いもあるんです。そんなこんなのことを考えてみたんですが、アセットマネジメント基金だと財政経営部ですし、部局をまたぐという意味で全体会に上げるのも一つの手かなと。全議員で議論するのも意味があるのではないかとということで提案をしてみます、ここに。皆さんどう思われますか。

○ 森川 慎委員長

皆さんの意見を聞いてから上げるかどうかということまでいこうかという話ですね。まずご相談を委員会の皆さんにしたいというお話ですが、豊田委員、先ほどそのような理由で全体会に上げてはどうかというご提案でしたけれども、委員の皆様のご意見をお伺いしたいと思います。いかがでしょう。

○ 土井数馬委員

いい意見やとは思いますが、ただ、学校だけに限らずアセットマネジメントでお金は要るだろうということで、もっと、僕、2050年が近づいてくると、CO₂削減で2050年、全く新しい考え方が出てくるわけですよ。建物もヨーロッパのほうでは冷えやんようなものに金を出すというふうなものもうじき出てくるかもしれません。建て方も全

く変わってくるかもしれません。学校も変わってくるかもしれませんので、もう少し全体的に世の中の流れを見ながら考えていくのも一つかなと。もし全体会上げてしまうと、この時点での結論めいたものがまとめて出てこうへんかなと思うと、ちょっとその辺が懸念するところなんですけどね。もう少しフレキシブルに考えていこうと思えば、常に世の中の動きを見ながら、今ならこうかなとか、常に変わっていくような気がしておりますので、私は気がかりなだけですけれども、そういう意見です。

○ 森川 慎委員長

他にどうでしょうか。

○ 中川雅晶委員

豊田委員が懸念されることは分からないわけではないんですけど、ただ、アセットマネジメント基金と学校施設の件は、アセットマネジメント基金が提案されたときも、2024年から2032年ぐらいでしたかね、このグラフにありますように改修なりというのが集中するので、そのときのために資金を別だてで準備しておきましょうと、引当金みたいな感じですよ。だから、それはそのとおりにやっていたという部分で、ここを過ぎればまた年に三十五、六億円ぐらいで平均的に済むような形になっていくというふうにグラフでも見て取れるので、そこをまたあえて議論する必要があるのかなのかというのは、私の中では疑問ですけれども。それを今議論して、もう既にそのために積んでいって、そのためのアセットマネジメント基金やというふうに確認もされているので、グラフも、資料提供していただいたものもそのように示されている部分で、そこに当然、将来にわたっての費用がかかるものについて引当金を留保していくというのは、会計上は当然のことかなと思います。

○ 豊田政典委員

反論するわけではなくて、私の認識では、長寿命化計画というのがかつてなかった時代の話ですけれども、ある意味、市長判断で建て替えのサイクルが遅れたのが平成の初め頃、中旬頃にあったかと思うんですよ。今、1600億円以上、42年間でというものがあって、アセットマネジメント基金は令和16年時点で200億円ですから全然足りないわけです。教育予算の確保はアセットマネジメント基金だけでは不十分ではないかとか、200億円も、学

校だけで4割と言っていますから、ほかにも6割あるわけですね。予算確保という意味で、何らかの手を考えるというのが一つの視点で、あるいは、アセットマネジメント基金をより強化するというのを思ったりするわけですね。だから、財政状態によって学校の建て替えや環境整備が遅れていくというのはあってはならないけれども、広瀬課長の答弁では、これは市長部局にも認められているということにはなっているんですよ、一応。長寿命化計画は確実に履行すると、そこまでは行っていないの、基金は別にして。

○ 森川 慎委員長

ちょっと確認だけ簡単に。

広瀬課長、どうでしょう。

○ 広瀬教育施設課長

教育施設課、広瀬でございます。

令和2年に策定しました学校施設の長寿命化計画につきましては、あくまでも将来生徒が減っていったときには、当然統合とか、そういうことも考えていかないといけないです。ただ、今現在の学校の状態で建て替えの寿命時期を計算していくと、このようになりますということで、これについては、当然議会にもご説明させていただいておりますし、当然庁内でも出させていただいておりますというか、ホームページでも公表させていただいておりますので、知っていただいているというふうに認識しております。

○ 豊田政典委員

森市長も知っているけれども、森さんが40年後も市長をやっているとは考えられないし、職員も議員も替わるわけですよ。そんなことを考えたときに、整備資金を確保しておくことを今から考えることも必要かなと思ったりするんですけど、いかがですか。土井委員が言われるように、学校校舎の作り方が変わってくるとかというのはもちろんありますよね。もっと言えば、私が言っているように、もっと学校を再配置するとか、そうすると建て替えですね、もう。数は少なくなるけど、そんなこともある。そんなことをごちゃごちゃ頭の中で考えていると、わけ分からんようになったので皆さんに相談しているという状況ですね。

○ 中川雅晶委員

でも、先ほど市長が替わったりとか議員が替わっても、アセットマネジメント基金というのは、替わったとしてもちゃんとそこに施設設備できるようにという意味合いも裏側にあるのかなと思いますし、ここにこだわるよりも、ハードも大切なんですけど、ハードもソフトも含めてですけど、教育費の予算全体がどうなのかというのは確かに、教育費の予算としてちゃんとそこに手当てされているかという大きな問題は僕もあるかなとは思いますが、ただ、施設整備とアセットマネジメント基金の関係を全体会に上げて議論しても、もう堂々巡りの議論になって、あまり深まるということはありませんのかなと思いますし。

○ 森川 慎委員長

私も聞いていて、あまりこの予算で全体会に上げてということにはすぐわんのかなという気がしてきて、何か全員の協議会でアセットマネジメント基金とかをまとめて議論というのであれば、また話は別だと思うんですけども、そんな感想を今持ちましたが、豊田委員、どうしましょう、もうやめましょうか。

(発言する者あり)

○ 森川 慎委員長

言っていないです。そんなこともあるかもねという話をただけです。

○ 豊田政典委員

分かりました。

○ 日置記平委員

学校設備についての計画が今ロングランで何年先までできているんですか。学校設備の投資計画。

○ 森川 慎委員長

更新の計画が何年先まで今存在しているのかということかな。

○ 広瀬教育施設課長

教育施設課、広瀬でございます。

学校の施設としましてはここに示させていただきますように40年間の計画を立てております。設備というところでしたでしょうか。

○ 日置記平委員

設備というのか、学校でも設備と言わないですか、校舎を建てる、講堂を建てる、その他もろもろの学校全体の、全体ではないね、設備やね。要するに箱物の計画、さっき建て替えの話が出ていますから、長期の長寿命化推進という話が出ていますので、3か年計画とか5か年計画、それでこれだけお金が要りまっせと。今資金は100億円ありますけど、あと積立てがどうしていくのかとか、それが四日市市の財政からどんなふうな方向にいくのか。それは市の財政、収入に合わせて教育委員会が学校の箱物、設備と言ったらピアノを買うのも設備かもしれませんが、トータル的な設備投資計画がどこまでできているのか。そこから分析していくと、年々どういう配分で行くのかなという、こういう計画はできているんやろうかというのにちょっと関心を持ったので。

○ 森川 慎委員長

日置委員が言ってみえるのは、具体的にどこの校舎をどう改修するとかって、そこまでの計画という。

○ 日置記平委員

それは当然そうだね。そうでなかったら予算はできないから。

○ 森川 慎委員長

というようなところですが。

○ 広瀬教育施設課長

教育施設課、広瀬でございます。

申し訳ございません。先ほどご説明させていただいたのは、あくまでも40年間の学校の配置を考えながら試算したグラフでございます。それを基準に四日市の10年間の総合計

画と合わせた形で10年間の施設整備計画というのを前回の所管事務調査でお示しもさせていただいていると思います。その中で、また推進計画を3年間に区切って計画を上げさせていただいておるといような状況でございます。

○ 日置記平委員

抽象的に言えばそうでしょうけど、私があなた方にお尋ねするのは、40年間の計画と言われたけど、極めてロングランの計画ですが、今令和4年ですが、これから40年間のプロセスプランニングができていますか。

○ 広瀬教育施設課長

教育施設課、広瀬でございます。

40年間、確かに時代の流れ、あるいは今ご議論いただいたように学校の施設に求められる機能とかも変わってくるかも分かりませんので、その点については加味してございません。その中で今現在ある校舎を建て替えるとしたらどういうふうな配置でとかというのを計画して試算をしたグラフがこれになっているということでございます。ですから、40年先、どんな形とか、施設が減ってとか、そういうところまでは申し訳ございませんが加味していない状態でございます。

○ 日置記平委員

40年と聞いてびっくりこいたんやけど、総合計画でも10年、せめて10年は必要だろうと思いますよ。でも、40年も先まで、40年という数字を言われたから、これはざくっとこんなふうなって言葉だけの表現でしょうけど、具体的に文字やら数字に表した40年ではありませんよね、これ。40年目には四日市市内の小学校、中学校の施設がこんなふうになっていきますという絵が描かれたんですかね、違いますわな。

○ 森川 慎委員長

日置委員、もう結構いろいろかみ合っていないので、もうちょっと、この予算審査が…

…。

○ 日置記平委員

基本的には40年先のことを具体的な、40年という数字を言われたから気になっただけで、だから、要は、学校の投資計画は何年までできていますかというのを、それをちょっと教えてよ。

○ 松岡副教育長

お答えになるかどうか分かりませんが、40年間と申し上げましたけど、具体的に計画をつくっていくところは、まずは総合計画の中の10年間の改築の計画の中であって、その3年間で資金繰りなんかを見ながら具体的につくり上げているので、現状はまだ3年間のところまでが見通せるという、そんな状況でございます。

○ 日置記平委員

あまりできてないということです。できてないのがいいか悪いかは別として、その都度その都度追いかけていく計画ではあんまり計画にならないので、もう少しやっぱり3か年計画、5か年計画、10か年計画、そんなような構造にしていくほうがいいんじゃないですか。できているのかできていないのか知りませんが、今の数字的なことからちょっと感じたので、その辺のところへ視点が行きました。ここで結構です。

○ 森川 慎委員長

ご参考にさせていただいて、またこの委員会でもそういったことも議論に出てくるかと思えますので、共有をさせていただきます。

それでは、来年度予算についてはここまでとさせていただきます、1時間たったので休憩を取っていただいた後、議案第106号からまた再開をしていきます。

(発言する者あり)

○ 森川 慎委員長

それ聞いていない。全体会へ送らないこととするということで、提案は取り下げられたということだと思いますので、全体会には送らないということで決してよろしいですかね。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

送らないことといたします。

[以上の経過により、議案第73号 令和4年度四日市市一般会計予算、第1条歳入歳出予算、歳出第10款教育費、第1項教育総務費（関係部分）、第2項小学校費、第3項中学校費、第4項幼稚園費（関係部分）、第5項社会教育費（関係部分）、第2条債務負担行為（関係部分）について、採決の結果、別段異議なく可決すべきものと決する。]

○ 森川 慎委員長

では、休憩を取らせていただいて、議案の第106号から再開していきますのでお願いします。

ごめんなさい。時間を言うていないな。あの時計で午後2時20分までにしましょう。

14：05 休憩

14：20 再開

○ 森川 慎委員長

それでは、再開をさせていただきます。

議案第106号 令和3年度四日市市一般会計補正予算（第12号）

第1条 歳入歳出予算の補正

歳出第10款 教育費

第1項 教育総務費

第2項 小学校費

第3項 中学校費

第5項 社会教育費（関係部分）

第2条 繰越明許費の補正（関係部分）

○ 森川 慎委員長

休憩前、議案第106号令和3年度四日市市一般会計補正予算（第12号）、教育委員会所管部分について、これから審査を行っていきます。本件は追加上程議案でございますので、資料の説明からお願いしたいと思います。

○ 杉本教育総務課長

教育総務課、杉本でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、資料、タブレット、ホーム、今日の会議、教育民生常任委員会分科会の227補正予算資料（教育委員会）をお願いいたします。

○ 森川 慎委員長

227の資料になります。よろしいでしょうか。

その3ページだったかな。

○ 杉本教育総務課長

資料のほう、7分の3ページ、お願いいたします。

○ 森川 慎委員長

227の7分の3ページからです。よろしいでしょうか。

お願いします。

○ 杉本教育総務課長

それでは、歳出補正予算の概要ということで、こちら、7分の3ページから7分の5ページまで一覧にまとめてございます。事業名、担当課、内容、補正前の額、補正予算額、そして補正予算書の対応ページでございます。

この一覧のうち、増額補正になっているものや国の一次補正によるものにつきましては、後ほど個別事業調書によりまして担当課長よりご説明を申し上げます。

それでは、こちらでは減額補正の概要についてご説明を申し上げます。

まず、教育総務課です。1件です。

表の二つ目、事務局一般経費。こちらはパートタイム会計年度任用職員の任用人数が当初の見込みを下回ったこと等による減額補正でございまして、補正予算額は560万円の減でございます。

続きまして、教育施設課です。2件ございます。

大矢知興譲小学校増築整備事業費、それから、二つ飛びまして表の一番下、その他施設整備費、中学校費。こちらにつきましては、いずれも入札差金による減額補正となっております。補正予算額はそれぞれ900万円の減、それから、1500万円の減となっております。

では、資料7分の4ページ、お願いいたします。

続きまして、学校教育課でございます。3件ございます。

まず、少人数学級拡充事業費、それから、一つ飛びまして、要保護準要保護児童就学援助費、それから、中学校給食事業費。この3件、いずれも当初の見込みを下回ったことによる減額補正でございまして、補正予算額につきましては、それぞれ1450万円の減、それから、1200万円の減、650万円の減となっております。

続きまして、一つ飛びまして、指導課でございます。減額補正が5件ございます。

まず、新教育プログラム推進事業費のうち、論理的思考力向上でございしますが、こちらは入札差金による減額となっております。340万円の減額です。

それから、その下、同じく新教育プログラム推進事業の英語コミュニケーション能力向上、それから、その下の地域への愛着、次のページに行ってくださいまして、7分の5ページ、中学校体育大会出場選手奨励金、そして、自然教室事業費。これらにつきましては、いずれも新型コロナウイルス感染症の影響による減額となっております。減額補正額につきましては、それぞれ記載のとおりでございます。

それから、7分の5ページの三つ目でございます。教育支援課1件です。

インクルーシブ教育推進事業費。こちらは介助員等の経費が当初の見込みを下回ったことによるものでございまして、補正予算額1950万円の減でございます。

続きまして、一つ飛びまして、社会教育・文化財課です。3件ございます。

埋蔵文化財保護事業費、それから、御池沼沢植物群落保存整備事業費から市指定文化財旧四郷村役場保存整備事業費。これらは入札差金による減額、それから、御池沼沢につきましては、併せまして補助金の交付額の減によるものということで、補正予算額それぞれ430万円の減、440万円の減、それから、1815万円の減となっております。

最後に博物館、2件でございます。

施設設備維持管理費、それから、運営事業費でございます。こちら、いずれも新型コロナウイルス感染症の影響と入札差金による減額となっております。補正予算額470万円の減と780万円の減となっております。

それでは、資料7分の6ページをお願いいたします。

繰越明許費の概要ということで、こちらを一覧にまとめてあります。繰越事由、繰越額はそれぞれ載っております。

こちらにつきましても、国の一次補正、それから、国の補助金の追加交付分につきましては、後ほど担当課よりご説明を申し上げます。

表の一番下、社会教育・文化財課の市指定文化財旧四郷村役場保存整備事業費でございますが、こちら、耐震補強及び修理工事において前金払いを行う予定で予算措置を行わせていただきましたが、受注者より前金払いの請求がなかったことによる繰越しでございます。繰越額については記載のとおりでございます。

それでは、資料のほう、タブレット、お戻りいただきまして、資料、126（2月25日追加配付）令和3年度2月補正予算参考資料（第12号）をお願いいたします。

そちらの資料の34ページをお願いいたします。

○ 森川 慎委員長

126、34ページになります。よろしいですかね。

じゃ、お願いします。

○ 杉本教育総務課長

それでは、ここからは各担当課長より個別事業調書でご説明を申し上げます。

まず、教育総務課でございます。退職手当です。

こちらは退職手当の支給額が勧奨退職、普通退職におきまして当初の見込額を上回ることから増額補正を行うものでございます。補正予算額については記載のとおりとなっております。

以上です。

○ 稲毛教育支援課長

教育支援課、稲毛でございます。

続きまして、35ページのほうをご覧ください。

国の一次補正予算に伴います教育情報通信システム運営費でございます。

本事業につきましては、G I G Aスクール構想におけるI C Tの効果的な活用を推進するために教員用のタブレットの不足分を追加整備し、情報共有や授業準備などをスムーズに行う環境を整えるための予算でございます。本予算につきましては、令和4年度当初予算での上程を予定しておりましたが、国の一次補正予算に伴いまして本年度に前倒して計上するとともに、次年度に全額の繰越しをお願いするものでございます。

内容、中段の(2)をご覧ください。

追加整備する端末でございますけれども、実教員数、現在1803人おります。そのうち整備済みの端末数が1376台ございまして、現状、教員用の不足分として427台、これが不足しておる台数です。一方、国の補助内容ですけれども、国の補助として、対象は管理職や養護教諭等を除く1609人が対象となります。国は、そのうち普通教室の数を抜いた台数分を補助として申請せよということですので、1609から896を引いて713台分、これに国の1台当たりの補助金額4万5000円に補助率2分の1を掛けましたこの額が補助金の額となります。補助補正の予算額につきましては3番に記載のとおりでございます。その全額を次年度に繰越しいたします。予算の内訳、国庫支出金と一般財源につきましても記載のとおりでございます。

以上です。

○ 稲垣学校教育課長

36ページをご覧くださいませでしょうか。

学校教育課、稲垣でございます。

一般管理運営費についてご説明させていただきます。

これは、学校における光熱水費におきまして、感染症予防対策として換気を行いながら空調設備を使用したこと、また、手洗い励行等の要因により当初の見込みを上回るために増額補正を行うものでございます。

また、正規職員の欠員代替として配置がなかったこと等によりまして、パートタイム会計年度任用職員に係る経費が当初の見込みを下回るために、ここの分については減額補正を行うものでございます。補正予算額につきましては記載のとおりでございます。どうぞ

よろしく申し上げます。

続きまして、37ページにまいります。

これは、国の一次補正に関わる感染症対策等支援経費というふうなことで、各学校が児童生徒の安心、安全な学習環境の確保と教育活動の継続のために感染症対策に必要となる物品の購入等について、校長の判断で迅速かつ柔軟に行うものでございます。これは、国の一次補正に伴って学校教育活動の継続のために感染症対策に必要となる物品の追加購入について補正を行うとともに、併せて繰越明許費を計上するものでございます。物品等につきましては、消耗品としては、例えば消毒液、非接触体温計、CO₂モニター、備品としては保健室関係ですね。保健室用ベッドであったりとかの寝具、体表面温度計、また、保健室のパーティション、つい立てなどです。そういったものに使わせていただきます。これは児童生徒数、学校の規模によって予算は分配されておるものでございまして、学校の規模及び額については記載のとおり、また、補正予算額として記載のと通りの額、全額を繰越明許費として計上させていただいております。

以上です。

○ 広瀬教育施設課長

教育施設課、広瀬でございます。

私のほうからは、38ページ、39ページのご説明をさせていただきます。

38ページです。大規模改修事業費（小中学校）でございます。

国の補正予算に伴い、令和4年度に予定しておりました大規模改修工事を令和3年度に前倒しして補正を計上するとともに、同額を令和4年度に明許繰越を行うものでございます。あわせまして、令和3年度予算の入札差金の減額補正も計上するものでございます。一旦令和3年度に前倒しして、令和4年度に明許繰越を行う工事の対象校舎整備内容は記載のとおりでございます。また、補正予算額、繰越明許費につきましては、記載のとおりでございます。

続きまして、次のページ、39ページをお願いいたします。

その他施設整備費（小学校費）でございます。

令和4年度に予定しておりました35人学級に対応するための四郷小学校の教室改修工事費を国の補正予算に伴い令和3年度に前倒しして補正予算を計上するとともに、そのまま令和4年度に明許繰越を行うものです。

また、笹川西小学校校舎跡地及び笹川西公園の再編について地元調整に時間を要しており、旧笹川小学校解体工事に着手できていないため。工事費の明許繰越を計上するものでございます。あわせまして、令和3年度で生じた入札差金の減額補正も行うものでございます。補正額、繰越明許費につきましては記載のとおりでございます。

私からは以上です。

○ 稲垣学校教育課長

学校教育課、稲垣でございます。よろしく申し上げます。

40ページをご覧くださいませでしょうか。

これは、令和5年4月の給食センター供用開始に向けて段階的に配膳室及びエレベーターを整備する。そして、給食センターから配送された給食をスムーズに受け入れられる体制を整えるというふうな目的の下、国の交付金の追加交付を受けたために令和4年度に実施する工事について、令和3年度に前倒しして予算計上するとともに、同額を繰越明許費として計上するものでございます。あわせて、当初予算で計上した工事等について、入札差金が生じたために減額補正を行うものでございます。受入れ校の整備対象校、内容につきましてはここに記載してあるとおり、また、補正予算額及び繰越明許費については記載させていただいておりますので、ご覧になってください。よろしく申し上げます。

以上です。

○ 森川 慎委員長

これで全部ですね。

説明は以上のとおりとなっております。

それでは、これから質疑に入っていきたいと思っておりますので、ご質疑がございます方、挙手にてご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

○ 中川雅晶委員

先ほど、小中学校の大規模改修事業、38ページですかね。これも私どもの山口議員のほうから手洗いの非接触のやつはどうなっているんだというところで、確認だけさせていただきます。

○ 広瀬教育施設課長

一般質問のときにもご答弁させていただきましたとおり、まず改築の場合はトイレとか、自動水栓にさせていただいております。ただ、トイレにはステンレスのシンクを設置しております。その仕上げの具合によって誤作動を起こすという可能性があるということと、廊下の手洗いについては、絵の具を洗ったり習字のすずりや筆を洗ったりして、手洗いだけの用途ではなくて、水量とか出る時間を調整するという機能も必要になりますので、なかなかそこについては難しいのかな。ただ、今後も技術の進歩というのがございますので、できるだけ適材適所で対応できるように、今後もその辺については検討していきたいというふうには思っております。

以上です。

○ 中川雅晶委員

そのことをお尋ねしておったなと今思い出しましたけれども、ぜひステンレスのシンクも研究してくださいねと言っていたような記憶がありますので、誤作動を起こさないようなステンレスにすることによって、少なくともトイレのところは非接触の手洗いにさせていただくように要望だけしておきますので、よろしく願いいたします。

○ 森川 慎委員長

他にほかの項でいかがでしょうか。当初予算のところと大分かぶっているところもありますので、昨日に大分していただいたのかなというふうに委員長として思っております。よろしいですかね。

(なし)

○ 森川 慎委員長

それでは、質疑はありませんので、これで終結させていただいて討論に移っていきます。討論のある方、挙手にてご発言いただきます。お願いします。

(なし)

○ 森川 慎委員長

なしのお声をいただきましたので、これより分科会としての採決を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

なお、全体会へ送るか否かは採決の後にお諮りをさせていただきます。

反対表明、ありませんでしたので、簡易採決により行ってまいります。

議案第106号令和3年度四日市市一般会計補正予算（第12号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第10款教育費、第1項教育総務費、第2項小学校費、第3項中学校費、第5項社会教育費（関係部分）、第2条繰越明許費の補正（関係部分）につきましては、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（異議なし）

○ 森川 慎委員長

ご異議なしと認め、本件は可決すべきものと決しました。

最後に全体会へ審査を送るべき事項について、ご提案がございましたらご発言をお願いします。

（なし）

○ 森川 慎委員長

なしの声をいただきましたので、全体会に送らないことといたします。

〔以上の経過により、議案第106号 令和3年度四日市市一般会計補正予算（第12号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第10款教育費、第1項教育総務費、第2項小学校費、第3項中学校費、第5項社会教育費（関係部分）、第2条繰越明許費の補正（関係部分）について、採決の結果、別段異議なく可決すべきものと決する。〕

議案第114号 令和4年度四日市市一般会計補正予算（第1号）

第1条 歳入歳出予算の補正

歳出第10款 教育費

第2項 小学校費

第3項 中学校費

○ 森川 慎委員長

それでは、続いて、議案第114号令和4年度四日市市一般会計補正予算（第1号）、教育委員会所管部分について審査を行っていきます。本件も追加上程議案でありますので、資料の説明からお願いしたいと思います。

○ 広瀬教育施設課長

教育施設課、広瀬でございます。

ファイルのほうですけれども、頭に129番（2月25日追加配付）令和4年度当初予算の補正予算参考資料（第1号）をよろしくお願いいたします。ページは10ページでございます。

○ 森川 慎委員長

129ファイルの10ページからです。よろしいでしょうか。

じゃ、お願いします。

○ 広瀬教育施設課長

10ページ、11ページと2件ございます。この10ページの大規模改修事業費と11ページのその他施設整備費につきましては、いずれも先ほどご説明させていただきましたとおり、令和3年度に前倒しして補正予算を計上させていただいたため、令和4年度当初予算より減額補正をお願いするものでございます。

説明は以上です。

○ 森川 慎委員長

説明はお聞き及びのとおりでございます。

ご質問を受けたいと思います。ご質問のございます方、挙手にてご発言をお願いします。いかがでしょうか。

(なし)

○ 森川 慎委員長

なしのお声をいただきました。急に早くなってまいりました。

ご質疑はございませんので、これにて質疑を終結させていただいて討論に移ります。

討論のある方、挙手にてご発言をお願いします。

(なし)

○ 森川 慎委員長

なしということですので、分科会としての採決を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

反対表明はありませんので、簡易採決により行います。

議案第114号令和4年度四日市市一般会計補正予算（第1号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第10款教育費、第2項小学校費、第3項中学校費につきましては、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

異議なしと認め、本件は可決すべきものと決しました。

それでは、全体会へ送ること、提案がございましたらご発言をお願いします。

(なし)

○ 森川 慎委員長

なしということですので、全体会には送らないこととさせていただきます。

〔以上の経過により、議案第114号 令和4年度四日市市一般会計補正予算（第1号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第10款教育費、第2項小学校費、第3項中学校費

について、採決の結果、別段異議なく可決すべきものと決する。]

○ 森川 慎委員長

ここで理事者の一部入替えがありますので委員の皆様はしばらくお待ちください。
よろしいでしょうかね。

議案第97号 工事請負契約の締結について
－常磐西小学校大規模改修工事（2期工事）－

議案第98号 工事請負契約の締結について
－笹川小学校中校舎大規模改修工事－

議案第99号 工事請負契約の締結について
－川島小学校大規模改修工事－

議案第100号 工事請負契約の締結について
－大矢知興譲小学校大規模改修ほか工事（1期工事）－

議案第101号 工事請負契約の締結について
－常磐中学校大規模改修工事（1期工事）－

議案第102号 工事請負契約の締結について
－博物館空調設備更新工事－

○ 森川 慎委員長

それでは、議案第97号ないし議案第102号の工事請負契約の締結についてを一括議題といたします。

本件につきましては、議案聴取会において追加資料の請求はありませんでしたので質疑より行っていきますけれども、基の資料のところだけ教えていただきたいと思います。

○ 広瀬教育施設課長

教育施設課、広瀬です。

議案書のほうですけれども、103議案書。

○ 森川 慎委員長

103の58ページ。

○ 広瀬教育施設課長

すみません。58ページでございます。それと、同じフォルダの104の提出議案参考資料のファイルを開けていただきまして、その中の17ページ。

○ 森川 慎委員長

104、参考資料の何ページって言いましたっけ。

○ 広瀬教育施設課長

17ページから27ページまでです。

○ 森川 慎委員長

工事請負契約の締結について、資料をご説明いただきましたので、質疑があります方は挙手にてご発言をお願いします。

○ 豊田政典委員

教育委員会の入札は調達契約課がやっているのか。

○ 広瀬教育施設課長

教育施設課、広瀬です。

入札は調達契約課のほうでお願いしております。

○ 豊田政典委員

それで、議案第97号、103の議案書を見ていますが、議案第97号から入札結果をずっと見ていくと、博物館まで全て最低制限価格ぴったりで落札して、しかも複数業者が、多くの業者が同じ価格でやっていると、くじ引。この結果について、発注者である教育委員会はどういう受け止めをしますか。

○ 広瀬教育施設課長

教育施設課、広瀬でございます。

まず、この予定価格の積算につきましては工事の発注課のほうで行っておりますが、国の積算基準に基づいて行っているということがまず一つ。また、契約後に予定価格積算書の情報開示請求を求めてみえる業者さんがございます。また、調達契約課のホームページには最低制限価格の計算式、算定式のほうを公表しております。これらのことから考えますと、ご熱心な業者の方については、予定価格から最低制限価格を割り出せる比率というのは高まるのではないかなというふうには考えております。

以上です。

○ 豊田政典委員

そのことは、昨日かな、その前かな、健康福祉部でも聞いたんです、受け止めとして。果たして本当に競争原理、競争性が働いているのかって、私は大いに疑問なんですけど、その点についての受け止め方を聞いている。

○ 森川 慎委員長

いかがでしょうか。

○ 広瀬教育施設課長

予定価格に対して業者をあまり競争させて価格を下げてしまうと、やはり手抜き工事とか粗悪品という問題も出てきます。また、職人さんの賃金確保という問題もある中で、調達契約課のほうで最低制限価格というのを設けております。そこに全体が至ってしまうというのは、契約をお願いしている側からすると致し方ないのかなというふうに考えております。

○ 豊田政典委員

今回は最低制限価格が続出したという結果ですけど、教育委員会の事案かどうか忘れましたが、9月か11月のときには失格者でしたっけ、続出した事例がある、すごくたくさんある、重なっていた、失格者だったかな。私は、今回のやつは競争性が損なわれているというふうに受け止めますし、教育委員会の全部がそうだし、健康福祉部のやつもそうでした。だから、調達契約課がいろんな入札方法というのをこれまでもやってきたし、やり方

を変えてきているのも分かりますけれども、この結果はやはり重く受け止めていただく必要があると思いますので、広瀬課長、これを仕方ないというのは積極的ではない発言なので、もっと改善できないかということはまた議論していただくことを要請したいですけど、私としては。いかがでしょうか。

○ 広瀬教育施設課長

教育施設課、広瀬です。

申し訳ございません。教育民生常任委員会でもこういうお話をいただいたということで、調達契約課にこういうお話があったということを伝えつつ、見直す必要があるのではないかということをお伝えさせていただきたいなと思っています。

○ 豊田政典委員

伝えた上で一緒に議論、協議いただければと、検討いただければと思いました。

以上。

○ 森川 慎委員長

他にいかがでしょうか。

○ 小田あけみ副委員長

素朴な疑問なんですけど、この入札結果を見るとくじ引になっていて、上手に同じような企業が別の工事にたくさん入札しておられて重複することがないんですけれども、例えば、くじなので全部同じ企業になることもありますよね。そうした場合はできるという前提でこれは公平にくじ引をしているんですね。

○ 広瀬教育施設課長

教育施設課、広瀬でございます。

入札される業者さんについては、その工事の規模によってランクづけがまずされております。そのランクづけの中でも、業者によっては現場代理人になれる資格の人が何名おるかによって入れられる札の件数というんですかね、例えば1の工事、2の工事、3の工事とあった場合、3の方がみえれば代理人を重複して出すことはできます。ただ、取った

ときに1人しかみえなければ、その人がまず一つ目の工事を落札されます。そうするともう次のくじ引で当たったとしても代理人がみえないので取れない。でも、もし代理人に登録できる人が3人みえたら、三つ、偶然的に当たったとしても、三つの現場はできるというふうになっております。

○ 小田あけみ副委員長

ありがとうございます。

よく談合とかという言葉がニュースで聞くので、上手に分配したように見られても仕方ないような、こんなに上手にできていてと思ったものですから。例えば全部トヨタトータルデザインさんが取ったらどうなるのかなとか、ちょっと普通に考えてしまっただけです。ほとんど同じような金額で入札をされていたので、上手に分けられたんだなというふうに思いました。ごめんなさい、それだけです。ありがとうございました。

○ 森川 慎委員長

分からないことは何でも聞いていただいて。

他にいかがでしょう。

なしの声が聞こえましたが、よろしいですかね。

(なし)

○ 森川 慎委員長

それでは、質疑はありませんので、これにて質疑を終結させていただきます。

討論に移ります。

討論のある方は挙手にてご発言をお願いします。

(なし)

○ 森川 慎委員長

討論はありませんので、採決を行います。

反対表明がありませんでしたので、簡易採決により行います。

議案第97号ないし議案第102号の工事請負契約の締結については、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

なしとのことで、本件は可決すべきものと決しました。

[以上の経過により、議案第97号 工事請負契約の締結について―常磐西小学校大規模改修工事（2期工事）―、議案第98号 工事請負契約の締結について―笹川小学校中校舎大規模改修工事―、議案第99号 工事請負契約の締結について―川島小学校大規模改修工事―、議案第100号 工事請負契約の締結について―大矢知興譲小学校大規模改修ほか工事（1期工事）―、議案第101号 工事請負契約の締結について―常磐中学校大規模改修工事（1期工事）―、議案第102号 工事請負契約の締結について―博物館空調設備更新工事―について、採決の結果、別段異議なく可決すべきものと決する。]

○ 森川 慎委員長

以上で教育委員会所管の議案審査は全て終了でございます。

理事者の入替えがございますので、委員の皆様はそのままお待ちいただいて、教育委員会の皆様はお疲れさまでございました。ありがとうございました。

こども未来部におきましても、課長さんぐらいまでがこの委員会室に寄っていただいて、その他の方は全員協議会室で控えていただいて、必要とあらば自由にご入室いただくという教育委員会と同じ方式で行いますので、議員の皆様におかれてはご容赦をいただいて、ご協力をお願いいたします。よろしいですかね。

(異議なし)

○ 森川 慎委員長

それでは、ここよりはこども未来部の議案審査を行ってまいります。

まず、部長からご挨拶をお願いいたします。

○ 伊藤こども未来部長

こども未来部、伊藤でございます。引き続きお疲れのところ、よろしくお願いいたします。

議案審査に入っていただく前に、新型コロナウイルス感染症の保育園等での感染状況についてちょっとご報告だけさせていただきたいと思います。しばらくお時間いただきます。

さきの一般質問の最終日に森川委員長のほうからご質問で、そのときに2月20日現在で保育幼稚園課のほうで把握しています市内の公立幼稚園、それから、公立私立の保育園、こども園、それと私立の地域型保育事業所、こちらのほうでの令和3年度の罹患者数、園児数が210人というふうにご報告をさせていただいたところなんですけど、2月末までのさらに8日間、この間にまた感染した児童が60人出ております。合計270人ということで、今申し上げた270人のうち、約8割の216人がオミクロン株が蔓延しだしたこの1月、2月の罹患者ということで、本当にオミクロン株の感染力の強さというところを感じさせる数字になっております。社会全体としては、ちょっと感染者数が減少傾向だというふうに言われていますが、子供たちの間ではまだまだそういう状況ではないというようなことで、毎日議員の皆様には感染状況を配信させていただいていますけど、まだしばらくはこの状況が続くのかなというふうに思っております。

こういう状況の中でございますけど、保育園、こども園については、社会機能の維持のためということで原則開所というのが国からの要請でもございますので、できる限り臨時休園ということがないように各ご家庭での対応もお願いしつつ、日々園の感染対策も気を配りながら現場のほうでは頑張らせていただいているというような状況でございます。

ただ、臨時休園をしている園であっても、どうしても仕事でお子さんをどこにも預けられないというような保護者の方もおみえになりますので、そういう保護者さんについては、保育士の配置が可能な限り代替保育というような形で保育はさせていただいているというような状況です。

ちなみに、本日現在で臨時休園している園は6園になってございます。

なお、市内の保育園、幼稚園等での感染状況等の情報提供というところについては、現在も保護者や市内の各保育園等に対して必要な状況は共有させていただきながら感染対策に努めているというところでございますが、今後も情報提供の在り方につきましては、教

育委員会とも調整を図りながら検討をしていきたいというふうに考えているところでございます。

コロナウイルスの件については以上になります。

今からご審査いただきますのは、来年度の一般会計予算、今年度、令和3年度の補正予算、それから、令和4年度、来年度の当初補正、あと、議案のほうがございます。本当に委員の皆様、お疲れのところ大変だと思いますが、どうぞ審査のほうをよろしく願いをいたします。

以上です。

○ 森川 慎委員長

ありがとうございました。

議案第73号 令和4年度四日市市一般会計予算

第1条 歳入歳出予算

歳出第3款 民生費

第1項 社会福祉費（関係部分）

第2項 児童福祉費（関係部分）

第4款 衛生費

第1項 保健衛生費（関係部分）

第10款 教育費

第1項 教育総務費（関係部分）

第4項 幼稚園費（関係部分）

第5項 社会教育費（関係部分）

第2条 債務負担行為（関係部分）

○ 森川 慎委員長

それでは、予算常任委員会教育民生分科会といたしまして、議案第73号令和4年度四日市市一般会計予算、こども未来部所管部分について審査を行っていきます。

本件については、議案聴取会で追加資料の請求がありましたので、追加資料の説明からお願いしたいと思います。

○ 三谷こども家庭課長

こども家庭課長です。三谷です。よろしくお願いいたします。

まず、タブレットの場所なんですけれども、教育民生常任委員会分科会、004こども未来部予算分科会資料の3ページからになります。

○ 森川 慎委員長

004の資料になります。

○ 三谷こども家庭課長

パンフレットの掲載をしておるんですけれども、すみません、今回、このパンフレットの現物でちょっと説明をさせていただきます。

○ 森川 慎委員長

同じものですよ、アップロードされているのと。

今、開始前にお手元に配っていただいたパンフレットです。お願いします。

○ 三谷こども家庭課長

日置委員から地域の見守りとしてできることということで参考になるもののご請求をいただきましたので、当課で活用しているパンフレットになります。

まず、2種類のパンフレットがあるんですけど、一つ目の189（いちはやく）という形ですね。このパンフレットは、「189（いちはやく）で守ろう！子どもの笑顔」というタイトルで、虐待の通告をしていただくための基本的なことを掲載しています。パンフレットを見開いていただいて、真ん中に地域で見守る子育て家族ということで、まずは声かけであったり、左下には、気づいてください、子供の虐待のサインということで、子供、親、家庭の切り口で見守りのポイントが記載されています。ご参考をお願いいたします。

続きまして、もう一つの黄色のパンフレットですけれども、こちらについては、議案聴取会の際、説明しました体罰によらない子育てに関するパンフレットになります。森川委員長からのご提案でこのパンフレットもつけてくださいということで今回つけさせていただきました。

以上で説明になります。

○ 棚橋こども保健福祉課長

こども保健福祉課、棚橋でございます。よろしくお願いいたします。

資料のほうは、今開いていただいているタブレット資料の7ページをお願いいたします。

多胎育児支援事業についてでございます。こちらは中川委員から多胎児育児支援事業の中で実施している親子ひろばの実績等について資料請求いただいたものでございます。

まず、1のところですが、親子ひろば——さくらんぼひろばという名前と呼んでおりますけれども——の実績を記載させていただきました。令和2年度から実施を始めたものでございまして、月1回開催してございます。参加者数等につきましては、表に記載のとおりでございます。

また、月別の参加者の状況については、資料中ほどの表に記載させていただいているところでございます。

毎回参加者からアンケートを記入していただいております。そのいただいた声の幾つか主なものを記載させていただいております。

それから、2番、経費の支出の状況でございますけれども、両年度とも約15万円の予算となっております。支出の内訳としまして、主なものは保育士2名の報償費でございます。

また、広場のふれあい遊び等で使用する消耗品に支出しているというところで、金額については記載のとおりでございます。

3番、課題のところでございますけれども、月によっては参加者の数が少ないという月もございますので、改めて参加を呼びかけて、できるだけ多くの方に参加していただきたいというふうに考えてございます。通常は妊娠届出時等に案内させていただいているところですが、参加者を改めて募るということで、昨年11月にも改めて対象の方に案内をさせていただいたところでございます。

また、参加者からの要望等も取り入れながら、さらに充実を図ってまいりたいというふうに考えてございます。

続いて、次の資料8ページをお願いいたします。

こちらは、中学生ピロリ菌検査事業についてでございます。笹岡委員から当該事業の実績等について資料請求いただきました。

この事業は今年度から実施しました事業として、2のところで事業の流れを改めて記載させていただきました。中学校3年生の年度当初に実施する学校検尿の検体を利用する形で実施させていただいております。前年度の3月に案内文書をまず配布しまして、4月当初に検査の申込書を配布しております。申込みいただいた方の学校検尿の検体を用いて実施させていただくのが1次検査、1次検査で陽性の場合に医療機関へ行っていただいて受けていただくのが2次検査ということでございまして、ここまでの検査が公費負担の部分でございます。2次検査で陽性ですと、あとまた医療機関のほうで除菌治療を各自していただくという流れになるものでございます。

3に実績を記載させていただきました。今年度からの事業でございまして、1次検査についてはもう終了しておりますので確定した数字でございます。2次検査につきましては12月末現在の数値でございます。1次検査の陽性の後、2次検査につながらないというケースもございますので、11月に改めて対象者に2次検査の案内をさせていただいたところでございます。

課題としましては、受診率を高めていく必要が今後あるのかなというふうに考えてございまして、受診案内の記載方法なども見直すことによってその向上に努めてまいりたいというふうに考えてございます。

私からは以上です。

○ 大西保育幼稚園課長

保育幼稚園課の大西でございます。よろしくお願いいたします。

次に、資料9ページをよろしくお願いいたします。

豊田委員からご請求いただきました保育士等人材確保事業に関しまして、事業背景の分かるもの、実態、そしてターゲットはといったところでご請求いただいております。

まず、1の事業拡大の経緯でございますが、①から順にまいりますと、保育園等への申込み児童数は、共働き家庭の増加による保育ニーズの増大などを背景として年々増加しており、ゼロから2歳児の就学前児童数に対する保育園等申込み児童数の割合、いわゆる申込み率は上昇をしております。また、これまで認可保育園や地域型保育事業施設の新設などの受入れ拡大により利用児童数は増加しております。④ですが、しかしながら依然として年度途中における待機児童が生じており、令和2年10月1日の待機児童は70人、今年度は105人でした。育休対応の現状としても令和2年度は114名の方にご退園いただ

いており、また、兄弟が別々の保育園、こども園に通園している状況にもあります。

次に、(2)の課題・問題でございますが、必要となる低年齢児の受入れ分をゼロから5歳児の施設規模で換算いたしますと、今後も北部で約210人、中部で約130人、南部で約240人の利用可能な施設が必要と見込んでおります。一方、全国的にも保育人材の不足が問題となっております、本市も同様、その人材確保が課題となっております。

次に、(3)の市の方針でございますが、対応方針1として、①定員170人の認可保育園の新たな設置を南部ブロックで進めてまいります。②として、年度途中の待機児童が最も多い北部ブロックにおける受入れの確保については、既存園の保育士増員による受入れ拡大に取り組んでもなお不足が見込まれるため、引き続き四日市私立保育連盟とも協議を行いながら、新設あるいは増設も含めて検討し、取り組んでまいります。

次に、対応方針2としまして、さらなる保育士の定着を図るため、新たな取組を実施していくことで、今後の各園における受入れの拡大に取り組んでまいります。

次、10ページでございます。

2の三重県及び愛知県内における指定保育士養成校の状況でございます。

(1)として、愛知県及び三重県内における指定保育士養成校の学生数でございますが、愛知県内は45校ございまして、最終学年の学生数として約3200人、三重県内は6校で、同じく学生数としては約300人でございます。

参考としまして、令和2年度でございますが、卒業生のうち約8割の方が保育施設に就職をしております。

次に、(2)といたしまして、私立保育園、こども園における年度当初の正規職員の正規採用実績でございます。

令和3年度でございますが、38人でございますが、その内訳といたしまして、三重県内の5校より16人、そして、県外の10校——これは全て愛知県でございますが——から22人でございます。

なお、採用しなかった保育士数として、退職者補充分も含めまして54人とお聞きしております。

3の今回の新たな取組の目的でございます。少なくとも現状の保育維持に必要な保育士の確保として、例年40人から50人前後の職員採用を必要としております。そのため、令和4年度から新たな取組を始めてまいります。これまで採用実績のなかった、あるいは少なかった養成校の学生の方々に対しまして、四日市私立保育連盟と協力しながら積極的な

アプローチをしてまいりたいと考えております。

下の図でございますが、先ほど申し上げましたように、例年必要としている人数としては40人から50人前後であり、それ以上のプラスアルファの人数を考えております。

まず、先ほど申し上げましたように、私立園の現状としまして、県内より愛知県のほうが本市の私立園では採用が多く、例えば令和3年度の実績ではございますが、県外の10校で22名でございます。そのため、10校以外にも45校ある中と考えるならば、ほかに35校と多くの学校があることから、その他の学校に対しても対応してまいりたいと考えております。

また、特に約3200人のうち、本市あるいは近隣市町の出身の学生の方々を中心に働きかけを行ってまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○ 上田こども未来課長

こども未来課、上田でございます。よろしくお願ひいたします。

資料11ページをお願いいたします。

子どもの貧困対策に関する計画に関しまして、豊田委員、中川委員、日置委員より、アンケート調査の概要及び来年度の取組内容について資料請求をいただきましたので、一括して説明させていただきます。

まず、1番の子供の生活実態調査につきましては、子供の貧困が社会問題化する中、子供の貧困対策について、本市の実情に応じた施策を講じるため、本市の子供と保護者の生活実態を把握することを目的としております。

調査方法につきましては、昨年10月から11月にかけて、市立小中学校に通う子供とその保護者を対象としたアンケート調査を学校を通じた配布、回収により実施いたしました。調査対象者は小学校5年生と中学校2年生全員とその保護者となっております。アンケート調査票につきましては、国の示すモデル調査票を基に、市議会、庁内ワーキング、子ども・子育て会議等の意見を踏まえ、作成させていただきました。

なお、実際のアンケート調査票につきましては、37ページから60ページに子供用と保護者用に分けて掲載しております。

回収結果につきましては、小学生が有効回収率96.8%、中学生が94.5%となっております。

なお、各設間の単純集計結果につきましては13ページから36ページに、こちらも子供用と保護者用に分けて掲載しております。

今後、所得等の家庭の状況を踏まえた分析を行い、3月末の報告書完成を予定しております。

次に、2番目の子どもの貧困対策に関する計画策定につきましては、関係部局による庁内ワーキングで検討するほか、子ども・子育て会議、市議会、市民のご意見を伺いながら、子ども・子育て支援事業計画の中に盛り込む形で策定していきたいと考えています。

スケジュールにつきましては、資料記載のとおりでございます。

追加資料の説明は以上でございます。

○ 森川 慎委員長

これで全部でしたよね、よろしいですね。

それでは、質疑に移っていくんですが、もう1時間近くたちましたので一旦休憩を取らせていただいて、質疑から再開をしていきたいと思っておりますので、あの時計で午後3時30分から再開とさせていただきますので、休憩させていただきます。

15 : 13 休憩

15 : 30 再開

○ 森川 慎委員長

それでは、午後3時30分になりましたので、再開をさせていただきたいと思っております。

まずは追加資料をご提供いただいたところを中心にまずご議論をしていただければと思います。また後ほど戻ってもらうのも結構ですので、その辺は皆さんにお任せします。まずは追加資料分からご質疑、ご意見等をお願いしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

では、いかがでしょうか。ご発言がございます方。

○ 笹岡秀太郎委員

ピロリ菌検査事業、ありがとうございました。

これを見せていただくと、今回初めてですので比較はできないんですが、1次検査に88.3%、初めてにしては多いのかなという気もするんですが、陽性者がそのうちの3.6%ということで、そこで2次検査に行くのが41%、少し落ちるかなという数字で見せていただきましたが、この結果を見て今後の啓発とか2次検査に行く必要性というのか、推奨というのか、どういう手法で行くのかということと、併せて、今回の1回目を通じて、今後の方針等もありますけれども、どういうふうに具体的に受診率の向上という策を練っていくのかというのがあれば教えていただきたいと思います。

○ 棚橋こども保健福祉課長

こども保健福祉課、棚橋でございます。

受診率の向上というところについては、まず、3月に案内文書を送る、それから、4月にまた希望を取るときに学校で文書を配布していただく。それから、2次検査の案内を出す。そういったところのタイミングがありますので、今回初めてということもございまして案内文書で分かりづらい部分もあったかと、そういうところも見直しながらそういうタイミングで出す文書のまず見直しをしていきたいというふうに考えてございます。

それから、今年度も実施したんですけれども、一定のタイミングで2次検査の受診者には改めて出させていただくというようなことは今後もしていきたいというふうに考えてございます。

○ 笹岡秀太郎委員

ありがとうございます。

なるべく受診したいなと思えるような方法で周知していただければありがたいと思うのと、それから、結果的に陽性になった場合の除菌治療、ここに至る方の数字というのは、これのところから見るとどういうふうに見るんやろう。ここには出てこないんですかね。

○ 棚橋こども保健福祉課長

こども保健福祉課、棚橋でございます。

除菌治療に進まれるという方は、2次検査陽性で把握できた14名の方なんですけれども、その事業の流れの除菌治療のところにも書かせていただきましたように、まず除菌治療で使われる薬が15歳以上に服用してもらうというものでございますので、誕生日によって

は誕生日を待たないとできない方もみえるというところがございます。

それから、これは医師会とも相談させていただいてのことなんですけれども、胃がんの防止や予防というところでさせていただいていますけれども、まず、ピロリ菌を持っているということを知っていただくということが必要であると。胃がんについては若年の間に発症することはほとんどなくて、中高年になってからというところもあるので、その中でいずれかのタイミングで治療をしていただくというところもあるし、中学3年生は薬が使えるということと、中学校でやるほうがより受診してもらいやすいということで中学3年生を今回対象にしてございますけれども、受験のシーズンということもございますので、それが終わってからと考えられる方もみえるかなというふうには考えてございますので、そのところの今後の除菌治療がいつということはその方々のタイミングで受けていただくことになるのかなというふうには考えてございます。

○ 笹岡秀太郎委員

当然ながらそういうことになるんやろうなと思いながら、そうすると、追いかけて治療者数とか、その辺を調べるのは非常に難しいなという気がするんですけど、その辺はどうでしょう、追っかけて調査されるのか、それとも、いやいや、もうお任せですよというふうにするのか。

○ 棚橋こども保健福祉課長

こども保健福祉課、棚橋でございます。

治療されたかどうかを追っかけるのは、今申し上げたようにかなり難しいところがあるのかなということと、治療して、今度胃がんが発生しなかったかどうかというところまで行くとかなり長いスパンになりますので、そこも含めて追っかけるのは非常に厳しいところもあるのかなというふうには考えてございます。

○ 笹岡秀太郎委員

当然そうなりますよね。

そうすると、例えばこの中の1人、2人、サンプリングでもいいから、一応この方を1人だけでもいいから追っかけるみたいな調査方法もあるのかなという気もするので、何らかの形で一度、とにかくせっかく始めたことですから、長い将来、発症するまでに随分時

間がかかる方もいらっしゃるでしょうから調べるのは非常に難しいかも分らんけれども、どこかの時点でそういうのも必要なのかなという気がするので、よろしくお願いたいなと思います。

それから、公費で2次検査をやるまでの間の技術的な何かトラブルとか改良点とか、そういうのはありませんでしたか。

○ 棚橋こども保健福祉課長

こども保健福祉課、棚橋でございます。

1次検査、2次検査の技術的な云々ということは特にこちらのほうで聞いているようなお話はございません。

○ 笹岡秀太郎委員

分かりました。

また引き続き分かりやすい啓発文書を作成していただいて、今回の88.3%を上回る数字を上げていただくようお願いして終わります。

○ 森川 慎委員長

ピロリ菌のお話が出ておるので、これに関連するようなことがございましたらここでご発言をいただければと思いますが、よろしかったですかね。

○ 日置記平委員

ピロリ菌ではありませんが、保育士の人材について確認をいたします。

報告書によると、令和3年度、38人採用数で、必要数は54人だったと。不足数が16人ということではよかったですか。

○ 大西保育幼稚園課長

不足はこの数字でして16人でございます。

以上でございます。

○ 日置記平委員

そこで、保育士の人材の確保事業の中で、積極的なアプローチ策と書いてありますが、これは具体的にどういう積極策をやられたんですか。ちょっと教えてください。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

積極的なアプローチとしまして、今年度新たに人材確保につきまして、PRのパンフレットの作成、そして、保育士募集のための専用のホームページ、こちらも作成していきたい。そして、四日市私立保育連盟さんが就職ガイダンスの開催、または参加するに当たっての経費の補助を行ってまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○ 日置記平委員

今、3点教えてもらいましたね。これが積極策ということ、これ以外はないんですか。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

それと、令和5年度からでございますが、就労の奨励金の給付ということで、私立保育園、こども園に就職後、一定期間——これは1年及び3年を経過するという事で考えておりますが——経過した職員に対して奨励金を補助してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○ 日置記平委員

その金額は。

○ 大西保育幼稚園課長

各10万円ずつを想定しております。

以上でございます。

○ 日置記平委員

1人ですか。

○ 大西保育幼稚園課長

1人でございます。

○ 日置記平委員

これはもらいきりですか。返済が必要なんですか。

○ 大西保育幼稚園課長

手当として、奨励金としてお渡しするといったところでございます。

○ 日置記平委員

それは私立のほうね。公立のほうはどうなんですか、四日市市立のほうは。

○ 森川 慎委員長

その辺も整理して改めてお答えください。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

今申し上げた奨励金については、私立保育園、こども園で予定しております。

一方、公立園につきましては実施しないといったところで、公立園の正規職員の場合につきましては、まだ募集があるといったところで判断しております。

以上でございます。

○ 日置記平委員

つまり、競争率から行くと私立よりも公立のほう競争率は高いと、希望者も多いと、そういう結果になったのかな。

○ 大西保育幼稚園課長

私立と比べますと公立の場合はまだ募集があつて、倍率が確保されているといったところでございます。

以上でございます。

○ 日置記平委員

参考までに教えてください。

収入面、初任給、公を100とすると私はどうなりますか。

○ 森川 慎委員長

今数字は出ますか。

○ 大西保育幼稚園課長

私立の初任給、今手元にございませぬ。

○ 森川 慎委員長

じゃ、ちょっとまだこの議論は続くと思いますので、どなたかを走らせていただいて調べていただいて。

日置委員、お待ちいただくか、質疑がございましたら続けていただいて結構です。

○ 日置記平委員

継続ね、まだ継続。

それで、採用策ですが、積極的なアプローチで今三つ言ってくれましたね。一つはパンフレットを作るということ、もう一つはホームページ、それからガイダンスということなんですが、必要数54人の中で不足数は16人なんだけど、公の分野でも不足はあったのか、公の分野は100%採用できたのかはどうですか。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

公立の場合は募集者数に対して100%採用しております。

以上でございます。

○ 日置記平委員

すると、過去3年、5年辺りの平均を見ても大体100%の充足ですか。

○ 森川 慎委員長

公立の話ですね。

○ 大西保育幼稚園課長

正規職員の採用に関しては、予定募集数に対して100%確保しております。

以上でございます。

○ 日置記平委員

そうすると、積極的な採用政策についての3種類は民間の保育所に対する支援ということになるわけですが、民間のほうからこれ以外に市に対してサポートを求められているようなことはありますか。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

四日市私立保育連盟さんのほうからは、保育士の確保が難しいといったところで重々要望を受けている次第でございます。

現在のところは、先ほど申し上げた三つの施策を、例えばパンフレット作成等につきましても、私保連さんと連携を組みながら何とか仕上げていきたいと考えております。

令和4年度につきましては、今申し上げたところで施策をスタートさせていただきますが、今後、新たにこういう施策があるといったご意見がある中で、またその充実等は努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○ 森川 慎委員長

ちょっと質問に答えていないかなと思うんですけど……。

○ 豊田政典委員

正面から答えやなあかん。

○ 森川 慎委員長

というか、先ほどの日置委員のご質問は、積極的に三つやると。それ以外に私立からこういうことをしてくれというようなことは具体的にあるかという質問だと思うので、ちょっと途中でずれていったかなと思います、お答えが。

○ 大西保育幼稚園課長

どうもすみませんでした。

もう一点ございまして、保育士の採用に関しまして、時期を前倒ししてほしいといったところをご要望として受けております。これにつきましては、来年度の試験から前倒しをしてみたいです。

以上でございます。

○ 日置記平委員

それは大きいな。課長、ちょっと話をしにくかったんやろうな。

そこそこで終わらなあきませんが、待機児童があるという事実を踏まえて、公の分野は定員いっぱいでしょう。そうすると、民間に引き受けてもらわなきゃいけないじゃない。民間に引き受けていただかなければいけないのに、民間のほうを希望する子供たちは、いづれにしても公のほうへ行けなかったら民間へ行かなきゃいけないでしょう。そういうことになると、民間のほうは保育士さんが足りないんだから受入れできないじゃない。それをどうサポートするかというのが、これは重要な四日市市の役割ですよ。

そこで三つ、さらに付け加えてもらって四つのサポート策があるわけね。私は、もう一つこれに加えられるといいなと思ったのは、採用についての前倒しも、これも非常にいいことだと思うんですけど、例えば就職のガイダンス、愛知県なんかたくさんあるわけで、三重県から愛知県の学校施設に通っている学生さんが何人みえるか知りませんが、そういう人たちに四日市で就職説明会を合同でやってあげるといのはどうなのかな、民と公との分野でね。そういう作業のサポートを四日市がしてあげるといことは非常に今の四つの方法にもう一つ加えてすることが極めて重要やと思うんですよ。

それから、もう一つは、どこまでそれができるか分からんけど、この前いろいろ討論しておる中で私が思ったのは、四日市は大変ありがたいことに必要な保育士さんが必要な数

だけ確保できるといういい環境にあるので、愛知県にある大学に求人活動に足を運ぶということは恐らくなかったかと思う、なくても済むから。だけど、四日市市の受け入れてほしい家庭から見れば、公がオーバーしたら民間へでも行きたいので、民間の保育士さんに援助してあげると。そういうときに僕の言う合同の求人就職ガイダンスを開いてあげることによって就職を希望する学生さんたちの安心度が違うんじゃないかな、公と民と一緒に合同でやってくれているということで。そういうことをやっぱりこれから、今までやったことがありませんな、そういうことは。ありますか。

○ **大西保育幼稚園課長**

やったことはございません。

○ **日置記平委員**

ないです。それをすると、民間の保育所経営者は、四日市は一生懸命考えてくれていると。四日市は何もせん、努力せんでもどンドン来てくれるんやでって。我々はやっぱり補助金をもらいながら自主独立の経営をしていかなきゃいけない。子供が定員数に満たなかったら経営難になるわけだね。特にこれから少子化になってくると、さらに難易度が増すんです。それだけに民と公の共同作戦は大事ですよ。ここのところは、部長の考えを、私の考えに対して意見を聞きたい。

○ **伊藤こども未来部長**

日置委員のほうからは、公立も私立もともに保育士確保というところで一緒にやっていくべきだというお話をいただきました。私も全く同じ意見でございます。本当に今、大西課長のほうからありましたように、公立のほうは、今のところ採用のときの応募者数、それなりの応募をいただいているような状況ではございますが、今後ますますやはり保育士さん、それこそ取り合いというような状況になってくると思っておりますので、四日市市の保育を公、私、共に支えていくというところでもって、共に保育士確保というところも一緒にやっていける部分はやっていきたいなというふうに考えております。

○ **日置記平委員**

だから、それはあなた方の考えと一致しましたけど、この考えが四日市のトップまで一

致しないと実行できませんよ。だから、あなたは勇気を持ってそのことをトップに伝えてください。

終わります。

○ 森川 慎委員長

ちょっと待ってください。初任給の数字はまだ出てないですかね。そうしたら、出次第また日置委員にご質疑いただきますので。

○ 小川政人委員

保育園ばかり注目されておるけど、幼児教育というのは保育園と幼稚園とあって、両方で四日市を助けてくれておると思っておるのやけれども、その辺でいくと、大西課長、今の話は、民間の保育園の先生方の補助ばかりやな。じゃ、民間の幼稚園の先生方はどうするんやという、これ、多分同じ資格を持っていると思うんやけど、その辺のことはクリアできておるのか。全然考えていないのか、クリアがもうできておるか考える必要がないのか、どっちなんや。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

小川委員から、一方、私立幼稚園はといったところでお話をいただきました。

それで、私立幼稚園のほうにつきましても、採用については十分ではないだろうということですが、本市が今直面している大きな課題につきましても、これは実際に年度途中で待機児童が生じておりました、保育園の入園に至っていないこと、これについて改善することといったことをごさいますして、市の保育の実施義務を含めて、このたびのもろもろの募集の提案につきましても、保育士及び保育教諭に限定させていただいておる次第でございます。

以上でございます。

○ 森川 慎委員長

またちゃんと答えていない。私立の保育園には対応をしようとしているけれども幼稚園ではどうやという質問だったと思うので、もうちょっときっちり。

○ 大西保育幼稚園課長

幼稚園につきましては実施しないと。その理由につきましては、今申し上げた内容でございます。

以上でございます。

○ 小川政人委員

さっき待機児童の話が出たけど、待機児童がゼロになるのは1日だけやろう、違っていたら教えてくれ。ちょっとの間だけやろう、待機児童がゼロになるというのは。

○ 森川 慎委員長

待機児童はゼロというふうに毎年発表はあるけれども、それはいつのどこまでの状況やということです。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

待機児童、4月1日現在はゼロでございます。しかし、10月1日につきましては、令和3年度は105名といった状況でございます。年度途中の入園は厳しい状況であるといったところでございます。

以上でございます。

○ 小川政人委員

だから、1日だけなんやけど、それを森市長は多分待機児童ゼロやって、ぱっと、朝、ピラを配ったんやわな。そうしたら児童の親からそんなのはおかしいやないかという話が出たと思うんや。ゼロにはまだならへんというのを僕らは知っておるけど、一般の保護者は知らへん。

それから、今直面しておると言うやん、直面するまでほっといたんや、知っておる。直面してから手当てしようなんていうのはばかげたことやで。直面する前にきちっと、将来絶対に二極化してくるよ。民間の保育園か幼稚園かという問題になってくると思うけど、そのときに両方がうまくいかなあかん、片一方だけで、四日市の幼児教育を両輪で支えて

いかなあかんの、片一方は半分手を離そうかなと思ってやっておるところもあるわな。その部分をどうやって支えていくかということが大事なことやのに、まだ直面しておらんでええわという、そんなとろくさいことを言っておらんと、役所の人間やったら将来を見据えてやるということは一番大事なことやと思うんやけど、その辺が思慮に欠けている。

○ 森川 慎委員長

ご意見ですが、何かコメントあれば、部長なりでも。

○ 伊藤こども未来部長

小川委員がおっしゃるように幼稚園、保育園、ともに就学前教育を担う施設でございます。これはもう公立も私立も同じように四日市の子供たちの教育を担っていただいているというところで、非常に大事な施設であるということは十分認識をさせていただいております。

ただ、先ほど課長からもお話があったように、保育園に関しては保育の実施義務というのが市のほうに課されているという中で、まだまだ年度途中の待機児童が発生しているような状況の中で、それを解消するためにはやはり保育士の確保というのが非常に大きな今課題であるというところで、そこに対して来年度以降しっかりと私保連さんと共にやっていこうというのが今回のご提示させていただいた予算の内容であるということでございます。私立の幼稚園さんに関しては、別にほっておくということではないんですが、保育の実施義務というところで私立の保育園のところをまずはさせていただきたいというふうに思っております。

○ 小川政人委員

ほっておくのと一緒やないか。課長の言うことと部長ということ、何も変わらへん。先のことを見据えた行政が全然やれておらん、困ったのでやりますやないか。初任給と初年度の先生の数というのは、私立の保育園も出してほしいけど、私立の幼稚園のほうも差があるのかないのか。きちんとその辺も踏まえてやっていかないと、幼稚園は三重県と言うけど、三重県は金あらへんで、四日市の子供が路頭に迷うだけやで。そんなことも考えられやんのやったらもう、ちょうど編成替えがあるでよそへ行ったほうがいい、俺はそう思うわ。やっぱり子供のことをきちっと考えて、誰のことじゃない、子供のことを考えよと

言っておるのや。一緒に出して。

○ 森川 慎委員長

そうしたら、その資料はもう明日に頂いて、それが来た後にその辺の議論をまた再開をしていただくとして。

○ 村山繁生委員

保育士確保事業の拡充、209万9000円ですね。これはうちの会派の意見なんですけど、少ないやないかと。こんな中途半端な金額やったら反対するぞという意見が出ておりました。その件に関して、もっとやりたいことが本当はあるのか、これで本当にいいと思っているのか、そのところだけまずちょっとお答えください。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

村山委員から金額が少ないのではないかといったところではございますが、先ほど申し上げた新規施策に関しましても、必要経費については予算要求させてもらっております209万円といったところでございますので、私立保育連盟さんとの連携も含めて中身で勝負してまいりたいと考えてございます。

そして、来年度、令和5年度からスタートします就労の奨励金の給付、これを予定しておりますので、これにつきましては、令和5年度実施で金額のほうは計上してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○ 村山繁生委員

令和5年度から実施のやつはいいんですけど、この拡充のPRの発信ですよね。中身で勝負する、本当にこれで勝負できるんですか。

○ 大西保育幼稚園課長

積算上はこちらで執行していきたいといったところで、十分かどうかと言ったら、この予算で頑張りたいと考えてございます。

以上でございます。

○ 村山繁生委員

ちょっと寂しいと思う。拡充のPRの発信の一つとして、私が代表質問でも言わせてもらったんですけど、愛知県からも来てもらうということで、家賃の補助も有効な手段だと思うんですけども、その辺はどうですかね。

○ 大西保育幼稚園課長

村山委員からは、家賃の補助をはじめ、その他のご提案もいただいております。

まだ家賃補助の実施までは至らないものの、資料の10ページに下の図でちょっと示しました愛知県内の最終学年の学生数としては3200人でございますが、まずはその内数としての四日市市内及び近隣市町の出身の学生の方々、要は家賃補助が発生しないような方々に働きかけをしてまいりたいといったところでございます。

以上でございます。

○ 森川 慎委員長

ちょっとずれていっておるけれども、家賃補助が発生しないような学生を募りたいなどという話かなと思いましたが、今。

○ 村山繁生委員

家賃補助が発生しない人に対して募集をするということですか。

○ 森川 慎委員長

今の答弁はそういうことかなと思いますけどね。

○ 村山繁生委員

それが積極策と言えるんですか。

○ 伊藤こども未来部長

村山委員のほうからは家賃補助ということのご提案を代表質問でもいただいたところで

ございます。

確かに名古屋市辺りは家賃補助ということも一つの施策として実施をされています。今課長が申し上げたように、愛知県内の学校へ行っている学生さんであっても、なかなか愛知県出身の方がこちらへ来ていただくというのは難しいのかなというところもあって、できるだけ県内、市内出身の方に戻ってきてもらうというようなところで働きかけをしっかりとしていきたいというふうには考えております。

ただ、おっしゃるように外から来ていただく方も今後というところはございますので、今後の課題として家賃補助ということも検討をしていきたいというふうに考えているところでございます。

○ 村山繁生委員

だから、三重県出身の人に来てもらうようにするというのは今までのやり方ですよ。だから、新たに愛知県の人からも来てもらうようなことをしたらどうやと僕は言うておるので、その辺のことを十分検討してもらおうということによろしいか。

○ 伊藤こども未来部長

来年度以降ということになります。また検討させていただきたいと思います。

○ 村山繁生委員

それと、この拡充策は新規が対象ですよ、PRも。潜在保育士というか、再就職の人のためのPRとか、そんなのはどうなっているんですか。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

潜在保育士の方々へのPRということで村山委員のほうからご進言いただいております。

潜在保育士の方々につきましても、今回、保育士獲得に向け、PRパンフレット、これにつきましても、手の取りやすいところに配架していきなり、保育士募集のためのホームページ、これをしっかりとつくってまいりますので、そちらでもいつもアクセスして情報を取っていただけるように対応はしてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○ 村山繁生委員

本当にこれは深刻な問題ですので、今までのやり方ではもう駄目なので、しっかりとやっていたきたいというふうに思います。

終わります。

○ 豊田政典委員

資料ありがとうございました。

3人の委員の皆さんが言われたこと、それぞれ私も同意いたします。その上で、資料の見方、ちょっとまだ分からないところがあるのでそこからお聞きしていきますが、まず、追加資料の10ページを見ていますけど、卒業生、最終学年の人数が、愛知県で3200人、三重県で300人、そのうちの三重県内の8割が園とか保育施設に就職、つまり、約240人は園関係に就職しているというふうに理解しますが、そこから16人が私立に行っている、保育園、こども園。令和3年度の38人というのは、市内の私立という読み方をしているのかどうかというのと、公立は240人のうちの100%と言われましたが、何人来ているんですかというところから行きます。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

まず、1点目、これは市内の保育園でございます。

そして、2点目につきまして、公立のほうはと申しますと、令和3年度、採用者として就職しているのが21名でございます。内訳としまして、愛知県が13名、三重県が5名、他県が3名でございますけれども、愛知県、三重県として約85%といった状況で、こちらも両県が多く占めているといった状況でございます。

以上でございます。

○ 豊田政典委員

240人のうちに、21人プラス38人で四日市というのは59名ということやな、公私合わせて。

○ 森川 慎委員長

もう一回、私立公立を明確にして何人という形で答えてください。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

この240人、300人のうちの8割、240人の内訳としましては、四日市市内の私立保育園、こちらにつきまして16名、そして公立園につきましては5名の計21名でございます。

以上でございます。

○ 豊田政典委員

21人ですね。それは実態として、ほかの人はどこへ行ったのかなというのが気になりながら聞きませんが、あと幾つかあるので、まず、本資料110ファイルで、括弧分けて三つに分けてであると。総額1億8176万5000円のうちの(1)と(2)で大半を……。

○ 森川 慎委員長

当初予算資料。

○ 豊田政典委員

当初予算は93ページ。大半を占める。ちょっと周辺の質問から行きますが、保育体制の強化で公私ともに用務員の配置と配置経費の補助をしていますよね。これをしようとしている理由は何ですか。

○ 大西保育幼稚園課長

用務員の配置の理由につきましてお答えさせていただきます。

有資格者の者が保育に集中できるよう、用務員を配置することによって園運営が円滑にいくようにといったところで配置しております。

以上でございます。

○ 豊田政典委員

それはそうだろうと思いついて聞いていたのですが、だから、背景を聞いているわけです、

僕は。

じゃ、まず、公立保育園、こども園は、今までは用務員が全く配置されていないのか。保育士資格を持った方には専門的にやっている仕事を今度はやってもらう、そういう内容ですか。

○ 大西保育幼稚園課長

豊田委員がおっしゃるように保育園には用務員は配置されておりましたので、今申し上げた理由により配置をしております。

以上でございます。

○ 豊田政典委員

今回の1億8000万円の目的は、私立保育園、こども園のサポートだと、簡単に言えばそうだと私は思うんですけど、日置委員が尋ねたところをもう少し深掘りしますが、市内の私立保育園、こども園と協議して、今困っているよというのは常々聞いているということですよ、確保が難しいと。なぜ確保できないかというところは把握しているんですか。こうなれば確保できるだろう、あるいは、こういう理由で辞めていく、あるいは採用できない、そういうのを把握しているんですか。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

まず、保育ニーズの高まりにより保育の必要性が増えているといったところでございます。そういう中で、退職補充者も含め募集するけれども、保育ニーズが高い、どの園も保育人材を必要としている中、希望どおりの人が集まらないといった状況で聞いております。

以上でございます。

○ 森川 慎委員長

豊田委員、もう一回明確に質問してください。

○ 豊田政典委員

私立保育園と話をして、この予算を企画する前になぜ確保できないのか。その理由を把

握しているのかどうかということを知っている。私は本会議で――部長は聞いていたが――この事業を名指しして批判しました。なぜかというと、私立保育園、こども園の採用状況を把握していなかったから。議案聴取会の際に尋ねたら、大西課長が今聞いていますと言うんだよ。それは後先逆じゃないのということを知っていたが、この事業は、もっと分かりやすく言うと、給与を補助する、つまり給与改善と書いてありますね、パンフレットにも。それから、就労奨励金と書いてある。これが理由で、給与が低いから採用できないという理由があるのかどうかね。奨励金があれば確保できるという根拠、確証があるのかどうか。いやいや、もっと別の理由だけということなのか。つまり想像でやっているんじゃないかと俺は思うわけですよ、悪く言えば。現場の声を聞いて立案された予算案なのかどうかということを知っている。

○ 森川 慎委員長

いかがでしょうか。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

まず、給与面、処遇の面につきましては、私立保育連盟のほうからも、平成29年度から国の処遇改善が開始されるものの、やはりさらに処遇改善が必要だといったところのご意見は聞かせていただきました。そういう前提で、この内容の（1）にございます本市の単独費でございます処遇改善も新たにアップしたところでございます。

そしてまた、途中でお話ございました用務員の配置につきましても、例えば私立保育連盟の役員会の折に国のほうで新たに新規メニューとして設置された保育支援者、あるいは用務員の事業について要望を受けておりまして、そういう重ね重ねの中で人材確保事業等を進めていると理解しております。

以上でございます。

○ 豊田政典委員

それで、もちろん私立保育園の保育士の方の働く環境をよくする、サポートするということは大事だと思うけれども、果たしてこれまで聞いてきた要望をミックスした合わせわざが人材確保につながるのかどうかというところが弱いように思うんですよ。だから、給

料を上げてどうのこうの、それは上げてやりたいし、用務員がいればいいなというのは分からなくてもない。それが本当にこの目的に効果があるのかどうかというところの理由がまだ弱いような気がする。気がするのでちょっと聞くんですけど、この9417万2000円を私立に補助すると、1人当たり幾らアップにつながるというシミュレーションができるんですか。

○ 大西保育幼稚園課長

(1) の令和2年度に処遇改善を行った時点の単価見直しの理由としましては、職員1人当たり、1か月、現行単価に6000円の追加をしたところでございます。

以上でございます。

○ 豊田政典委員

月額6000円、1人当たりということね。

PRの話に行きますが、村山委員が言われるようにこんな金額でええんかという気はしているんですけど、PRパンフレットに書く項目として、四日市市独自の給与改善加算というのを売りとして書くんだというんですけど、これは他市町や愛知県に比べていいんですか、悪いんですか、どのぐらいいいんですか。売りになるの、これ。

○ 三井保育幼稚園課副参事兼課長補佐

保育幼稚園課、三井です。

先ほどご質問いただきました給与改善部分になりますけれども、今後、PR等で掲載させていただく際は、増額した6000円分ということではなくて、市独自で行っているこの給与改善部分、これは例えば10年以上勤務されている人であれば月額1万3400円になります。これを12か月にすると16万円程度、年間に市独自の部分で追加支給されるという形になります。この金額は全国で厳密に比較したわけではないですけども、都心部で行われている市独自部分と比較してもそれほど遜色ない金額であるというふうに認識しております。

以上でございます。

○ 豊田政典委員

最後の部分がちょっとはつきり分かりませんが、愛知県から呼んでくるほどではないの

か。三重県出身で愛知県の学校を卒業してうちに帰ろうかと迷っている人を呼び込めるだけのパワーがあるわけか、その金額は。

○ 森川 慎委員長

合わせて10年以上と言われたけど、新規採用するのに10年以上の勤務の給与改善部分をアピールしてもあまり意味ないんじゃないかという気もしたんですが、そうでもないですか。

○ 三井保育幼稚園課副参事兼課長補佐

保育幼稚園課、三井です。

申し訳ございません。平均勤続年数に応じて市独自の給与改善補助単価が決まっております。今、10年以上をご紹介させていただきましたけれども、例えば4年未満で1万円、4年以上7年未満で1万2000円といったように年数に応じた単価の設定があります。ですので、PRしていくときはそれぞれの年収ベースをモデルとして掲載しながら発信していきたいなというふうには考えております。

○ 森川 慎委員長

ちょっとごめんなさい、豊田委員の質問を取ってしまうんですけど、愛知県とかと比べて今言われたような給与の改善は、四日市で保育士をしようという動機になるような十分な訴求力を持っている金額なのかどうかというようなことを豊田委員は質問されました。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

四日市市としての単独の処遇改善であるといったところで、これは要因になるだろうと考えております。

ただ、豊田委員がおっしゃったように、これだけでは確かに獲得するに弱いだろうというお話もございます。それも確かに認めます。そういう点につきましては、やはり全て総合的なところで本市を選んでいただくのかなと思っておりますので、総合的に選んでもらえるエッセンスといいますか要素を、例えば来年度につきましては、PRパンフを配ってホームページを作って、そしてガイダンスを支援していったと、翌年度には就労奨励費を

出してといった辺りで、連続して本市で働いてもらいたいといった魅力的なPRを進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○ 豊田政典委員

過大広告にならんようにしてくださいね。話が違うじゃないかとか、四日市はこんなすばらしいまちだって……。

○ 森川 慎委員長

ごめんなさいね。給与の話だけに絞って、先ほど豊田委員が考えていた、それは例えば名古屋に就職されるのと四日市に就職されるのは加算することで大体同じぐらいの給与になるということでもいいんですか。そういう質問も多分含まれて最初はされたと思うので、その部分は答えていただいていないんですが、トータルの中のワンエッセンスだということとは分かりましたが、給与の話です。給与に絞って、それはどうなんでしょうか。

分からんのやったらまたあしたも多分しますので、ちょっと1回調べてください。

○ 豊田政典委員

じゃ、給与の話、またあしたということで、もう一個だけ。

日置委員の答えで、採用前倒しという要望が私保連からあったというようなことで、よく分かってないんですけど、私立の採用ですよ、違うの。公立の前倒しでしたっけ。そうするとどうなるの、どんな効果があるんですか。もうやることにしたんでしたっけ。

○ 森川 慎委員長

いや、まだそれは多分でてない、先ほどはそういう要望があるという答えやったと思いますけど、もう一回整理して答えてください。

○ 大西保育幼稚園課長

公立の募集につきましては前倒しをしてまいります。今までの9月に試験だったものを来年度、再来年度の募集につきましては6月に実施でございます。

以上でございます。

○ 森川 慎委員長

その心は。どういうメリットが私立のほうにあるのでそういう前倒しの要望が出ているかということ。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

公立の試験が早まることによって、例えば公立の試験結果等も含めてかなと思うのですが、要はその後の私立園を選択される時間が長くなるといったようなことを私保連から聞いております。

以上でございます。

○ 豊田政典委員

もうちょっとだけ教えて、まだ分かん。今は9月に公立で、私立は何月で、短いとどいうマイナス面があって、6月にするとどんなことが考えられるのか。よく分かんのですが、可能かどうか分かん聞いていますけど、公立を後にしたほうがよりええのと違うかなと素人は思うわけですが、それはできないのというのも併せて。

○ 大西保育幼稚園課長

大西でございます。

私立の募集につきましては8月以降でございます。そういう中で、公立は9月に試験をしていたものを6月に試験を開始すると。

○ 森川 慎委員長

言ってもらったのは、今のですね。

○ 大西保育幼稚園課長

今です。

○ 豊田政典委員

両方受かったら公立に取られるということやな、後から。そういうことじゃないか。公立を先にしておいてもう確保しておいて、例えば公立に落ちた人が私立へ行くので、より確保しやすいのではないかとということです。

○ 大西保育幼稚園課長

そういう学生の方がいらっしゃるといったところで私立保育連盟からは聞いております。

○ 森川 慎委員長

もう午後4時半なので、給与の資料とかもまだですので、改めてあしたの午前10時から、ここから再開をしたいと思いますが、この際、何か数字的なもの、こういうところも調べておいてほしいとかというがあれば今のうちに出してほしいと思うんですが、なければもうこのまま終了したいと思いますけど、いかがでしょう。

よろしいですかね。よろしいですか。

(なし)

○ 森川 慎委員長

そうしたら請求の数字だけは明日調べていただいて、可能でしたら資料を作って出してもらいたほうが分かりやすいと思いますのでお願いをさせていただいて、今日のところはここまでとさせていただき、明日の朝から保育園の保育士の確保のところから始めていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

本日は終わります。ありがとうございました。

16：27 閉議